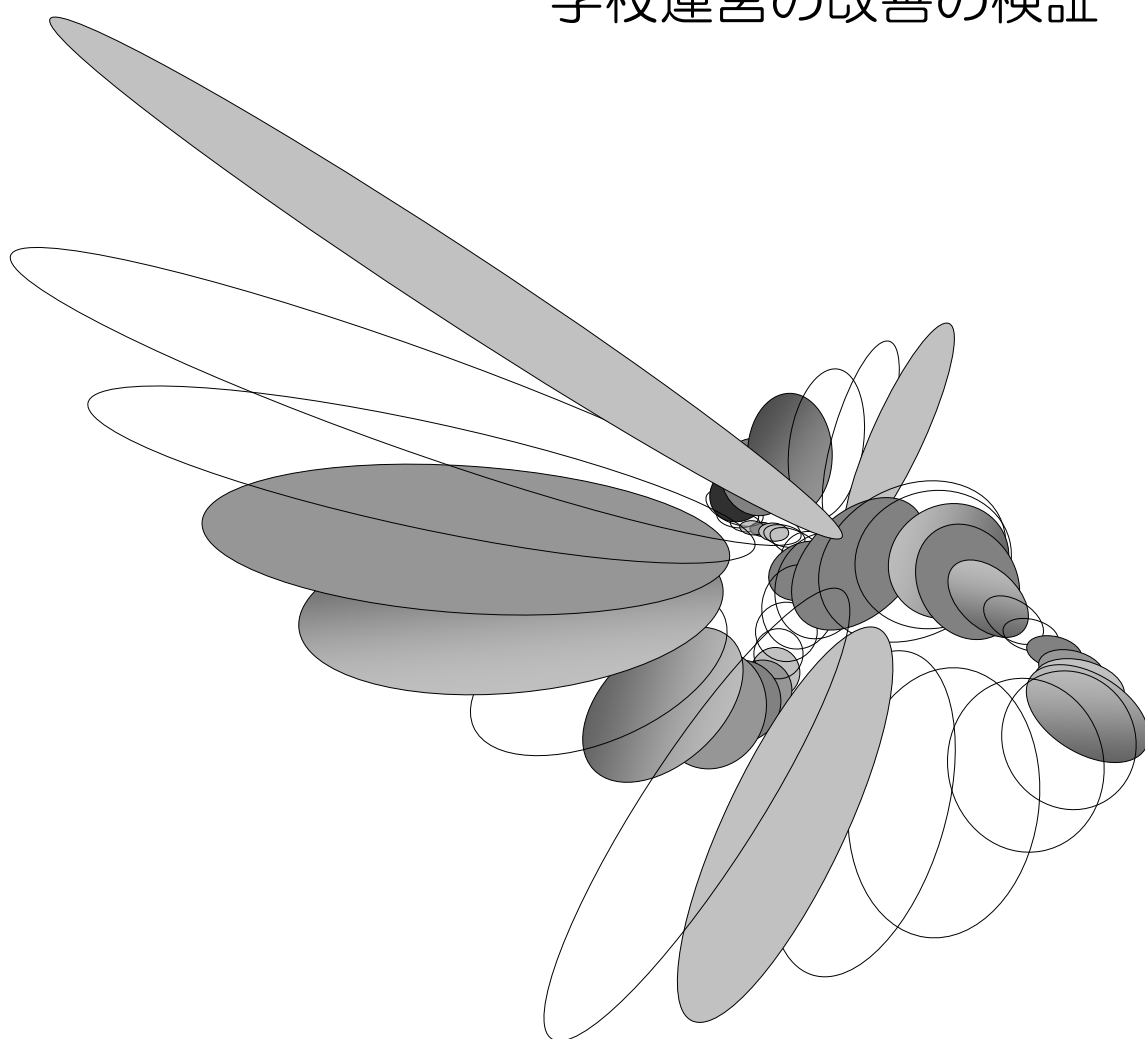


平成22年度

# よりよい学校づくりのために

—学校運営の改善の検証—



愛媛県教育委員会

## は じ め に

平成 22 年 7 月「学校の第三者評価のガイドラインの策定等に関する調査研究協力者会議」における議論を踏まえて、「学校評価ガイドライン」が改訂され、学校の第三者評価の在り方に関する内容が拡充して示されました。第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、教育水準の向上を図るため、適切に説明責任を果たし、保護者や地域住民の理解と参画を得て学校づくりを進めていくとともに、自己評価や学校関係者評価に加えて、専門的な視点から、教職員や保護者等とは異なる立場からの評価を導入し、学校評価全体の充実を図ることを目指して行われるものです。

県教育委員会では、平成 22 年度文部科学省の委託を受けて、本県がこれまでに研究し、培ってきた学校評価に関わる取組を生かして、専門的助言を活用した学校運営の改善のための仕組みづくり、学校評価の充実のための研修の在り方、学校運営の改善の成果の定量的な測定方法について調査研究に取り組みました。

本冊子は、地域との信頼関係を築く学校評価をどのように推進していくべきか、また、その成果をどのように測定し、検証していくべきかなど、学校評価に関わる様々な課題を解決するための手だてについて、推進地域である四国中央市の取組を基にまとめたものです。県内の各学校における学校評価の改善・充実につながるとともに、信頼される学校づくりの一助になれば幸いです。

最後に、事業の実施に当たって、貴重な御提言等をいただきました愛媛大学教育学部露口健司准教授をはじめ、本事業の推進に御協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

平成 23 年 3 月

愛媛県教育委員会

## 目 次

|     |                                        |    |
|-----|----------------------------------------|----|
| I   | 評価に焦点を当てた学校改善の推進                       |    |
|     | ー「労多く幸薄し」からの脱却ー                        | 1  |
|     | 愛媛大学教育学部准教授 露口 健司                      |    |
| II  | 学校評価における専門的助言の活用                       | 3  |
|     | 1 これまでの経緯                              |    |
|     | 2 研究の目的                                |    |
|     | 3 研究の内容                                |    |
|     | 4 実施日程                                 |    |
|     | 5 実施体制図                                |    |
| III | 学校の課題解決のための仕組みづくり                      | 5  |
|     | 1 学校運営の活性化を支援する学校評価運営委員会の設置            |    |
|     | 2 新たな気付きをもたらす第三者評価の実施                  |    |
|     | 3 学校運営の改善方策をともに探る学校評価コンサルテーションの実施      |    |
| IV  | 学校評価の充実のための研修の在り方                      | 16 |
|     | 1 学校評価推進事業管理職研修会                       |    |
|     | 2 学校関係者評価委員研修会                         |    |
|     | 3 教務・研修主任研修会                           |    |
| V   | 学校運営の改善の成果の定量的な測定                      | 26 |
|     | 1 保護者集団の構造把握                           |    |
|     | 2 学校運営の改善の成果の検証                        |    |
|     | 3 学校信頼につながる情報                          |    |
|     | 4 成果と課題                                |    |
| VI  | 資料                                     | 32 |
|     | ○ 保護者アンケート〔保護者集団構造分析モデル (P-TRUST2010)〕 |    |
|     | ○ 四国中央市学校関係者評価シート                      |    |

## I 評価に焦点を当てた学校改善の推進 ー「労多く幸薄し」からの脱却ー

愛媛大学教育学部 准教授 露口 健司

### 1 労多く幸薄しと言えば・・・

学校の職務で「労多く、幸薄し」と言えば、〇〇である。先生は、どのような職務を思い浮かべるでしょうか。多くの先生方が、学校評価を思い浮かべているのではないのでしょうか。教職員の自己評価や各分掌から提出された資料をまとめる。児童生徒や保護者の外部アンケートを実施し、分析・整理する。評価結果を職員、保護者、学校関係者評価委員に説明する。これらは本当にたいへんな作業です。にもかかわらず、説明しても反応が乏しく、手応えが感じられないことがあります。「評価のための評価」になっているなどと批判されてしまうと、本当に幸薄い状態に陥ります。

### 2 しっかり定着、すっきり形骸化？

学校評価はマネジメントサイクル(PDCA)の一部にすぎません。これまで評価(C)の部分脆弱であるため、学校経営・改善が機能していないとする指摘の下、評価への焦点化が進められてきました。評価の方法の開発にしばらくの間、関心が注がれてきました。

しかし、評価にのみ焦点を当ててもうまくいかないことが分かってきました。評価のためには目標が必要です。ぜひとも実現したいと思える魅力的な目標が設定されていると、職員は、その目標がどの程度実現できたのか知りたくなるものです。実施過程で手応えを感じている場合、評価は楽しみの一つになり得ます。ただし、目標達成状況を知るためには、優れた成果指標が必要です。成果指標には、「した」「努めた」「取り組んだ」等の努力要素ではなく、「できた」「向上した」「改善した」等の成果要素の設定が求められます。

子どもの例で考えてみましょう。3学期のめあてを「べんきょうをがんばる」と設定した子どもがいたとします。この目標だけで、子どもの行動に変化は現れるのでしょうか。何をどのようにがんばるのでしょうか。「がんばる」ことができたかどうかを判断する指標がないと、行動は変容しないと思います。「毎日30分以上勉強する」「苦手な算数の復習時間を2学期よりも増やす」「日記を毎日書く」等と、成果指標をもたせることが必要です。「授業改善に努めたか」といった項目は、見直した方がよいでしょう。

さて、さきほど「魅力的な目標」の必要性について書きましたが、それはどのような目標でしょうか。その目標が達成されたときの子どもたち・保護者・職員の「顔」を想像してみてください。幸せそうな表情が思い浮かべば、それは魅力的な目標です。みんなのつらそうな顔が思い浮かぶようであれば、その目標は魅力的とは言えません。

### 3 評価は相手への関心と関わりを高める

学校では、学校評価の他に、学習評価や授業評価等の評価が実践されています。評価という行為は、課題発見・成長・意欲向上等の様々な効果が指摘されています。しかし、私が特に注視したいのは、評価を行うことで「相手に関心をもち、関わるようになる」という効果です。先生は、児童生徒の学習評価を行うために、児童生徒に関わり、観察し、様々なデータを収集しています。学習評価をしなくてもよいのであれば、相手と関

わる必要性は大幅に低減します。

授業評価も同様です。愛媛県では、授業評価システム構築事業を進めてきました。実施校において教師は同僚の授業を評価しなければならないため、今まで以上に同僚に関心を持ち、教師同士が関わり合い、授業に関する会話が大幅に増えました。評価しなくてもよいのであれば、適当に同僚の授業を見ることが許されます。

さて、学校評価の実践によって、様々な人々によって構成される「学校」に関心をもつようになります。自己評価では、部門や組織全体の動きを意識しないと評価できません。また、信頼や連携に関する評価項目があれば、保護者や地域住民に対しても、必ず従来よりも関心をもつはずで、外部アンケートや学校関係者評価の実践は、保護者や地域住民による学校に対する関心を高めるでしょう。

なお、愛媛県ではあまり盛んではないのですが、新しい教員評価制度も、管理職による教員への関心を高め、交流の頻度を高める効果を有しています。

#### 4 データ分析・表現の工夫

評価方法についての研究は、確かに進展してきました。全国の学校評価の研究指定校が、優れた研究成果を発表してきました。しかし、それらの発表やガイドラインにおいてあまり言及されていないのですが、データ分析法や表現技法に対する関心が低いようです。学校評価活動は、膨大な量的・質的データを生み出します。データ収集以降、これらをうまく加工・分析し、表現・報告しないと、相手には伝わりません。

やたらと数字の多い表（件数を表示した度数分布表）では、内容を理解するのに相当の苦労を要します。職員・保護者・地域住民が容易に理解できる分かりやすい表現が求められます。自由記述のまとめ方にも、効果的な方法がたくさんあります。

#### 5 改善につなぐポイントは「評価結果についてのコミュニケーション」

「評価のための評価」になっている学校では、評価結果をどのように扱っているでしょうか。職員に配布するだけ。職員朝礼等で報告し、そのまま机の肥やしとなる。外部アンケートを実施しても保護者にフィードバックしない。学校関係者評価では悪い評価は説明しない。こうした特徴をもつ学校では、評価結果についてのコミュニケーションがほとんどなされていません。評価結果を職員間で協議する。保護者との間で協議する。学校関係者評価の会議で協議する。協議を重ねる中で、析出された課題の重要性が意識され、そして、課題を解決しようとして、みんなで知恵を絞るのです。マイナス評価を出さない性質をもった学校では、こうしたコミュニケーションは盛り上がりません。

少なくとも、各学期末に、職員間で評価結果を協議する機会を設定することが望まれます。学校評価の年度計画には、評価結果分析後の「協議」の機会を位置付ける（例えば、8月・12月・3月）ことも考えられます。3学期末は、1年間を総括する最も重要な時期です。課題をしっかりと分析・考察し、次年度の担当者に申し送るための資料をまとめ、経営の連続性を確保しておきたいものです。学校経営の断絶は、関係者に不幸をもたらします。「来年度、自分が（この学校に）いるかどうか分からないから…」という言い訳は、たいへん無責任なものではないでしょうか。

## Ⅱ 学校評価における専門的助言の活用

### 1 これまでの経緯

愛媛県教育委員会では、平成 18～20 年度に推進地域を指定し、学校評価ガイドラインに基づく学校評価システムの構築に向けての調査研究を実施し、その成果の普及に努めてきた。平成 21 年度には、学校や設置者に新たな気付きをもたらすような第三者評価の在り方やその仕組みづくりについて調査研究を行い、手引き書として、『よりよい学校づくりのために－第三者評価の手引き－』を作成した。

これまでの取組により、県の「学校教育に関する調査」によると、平成 21 年度、自己評価とその結果の公表及び設置者への報告については、県内全ての小・中学校で実施され、学校関係者評価についても 99%の学校で実施されるようになった。

### 2 研究の目的

学校評価は、組織的・継続的に取り組むことによって、学校の運営や活動の改善に結び付く。しかし、評価のための評価にとどまっていたら、成果につながりくい。

そこで、今年度は、これまで取り組んできた自己評価、学校関係者評価に加えて、第三者評価を取り入れた学校運営の改善の仕組みづくりについて、また、評価結果を効果的に活用しながら、家庭・地域・行政が連携協力して学校の教育活動や学校運営を支援する学校評価の在り方について研究する。

### 3 研究の内容

学校評価について有識者による専門的助言を活用し、本研究の推進地域である四国中央市教育委員会と協力して、次の 3 点についての調査研究を行う。

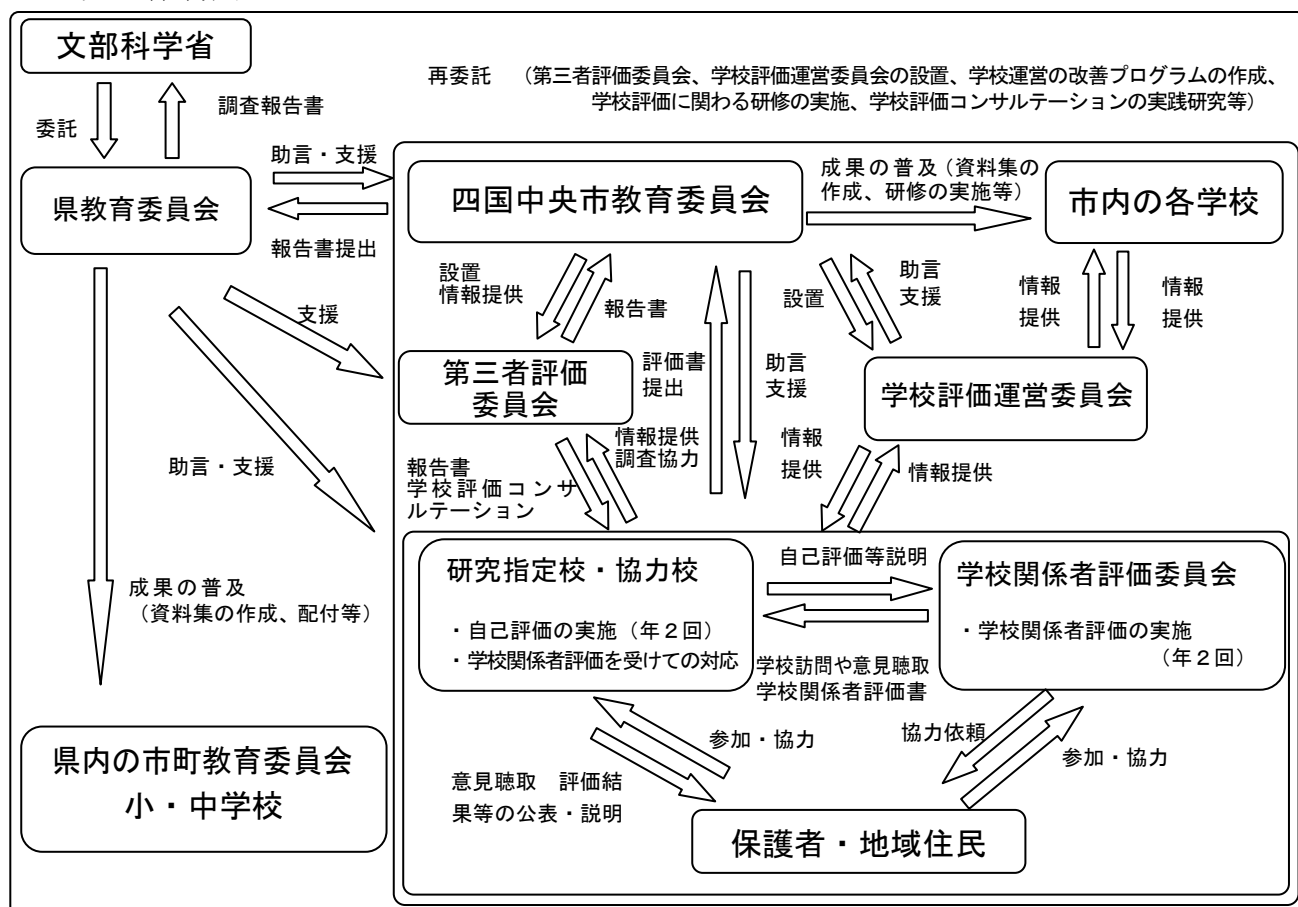
- (1) 学校の課題を解決するために必要な支援を行う仕組みづくりについての調査研究
- (2) 学校評価の充実のために必要な研修の在り方についての調査研究
- (3) 自己評価、学校関係者評価、第三者評価の結果を基に、学校の教育活動の改善がどのように図られたか、定量的な測定の方法についての調査研究

### 4 実施日程

| 実施<br>時期 | 実施事項                                          |                                     |                                            |
|----------|-----------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------------|
|          | 愛媛県教育委員会                                      | 四国中央市教育委員会                          | 研究指定校・協力校等                                 |
| 4 月      | 事業計画書作成                                       | 事業計画書作成<br>実践研究内容の周知、各校の評価計画の作成     | 事業計画書作成<br>実践研究内容の確認<br>学校運営の改善プログラム（案）の作成 |
| 6 月      | 学校評価コンサルテーション実施<br>※学校評価コンサルテーション<br>（P 9 参照） | 市学校評価運営委員会設置                        | 学校評価コンサルテーション                              |
| 7 月      | 学校調査の実施（1 回目）<br>学校調査の分析                      | 管理職研修会<br>市学校評価運営委員会<br>第三者評価委員会の設置 |                                            |

|     |                                               |                                                                |                                                  |
|-----|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 8月  |                                               |                                                                |                                                  |
| 9月  | 学校評価運営委員会への参加<br>第三者評価への参加<br>学校評価コンサルテーション実施 | 第1回第三者評価委員会(指定校)<br>学校関係者評価委員研修会                               | 学校評価コンサルテーション<br>第1回第三者評価(指定校)                   |
| 10月 | 第三者評価への参加<br>学校評価コンサルテーション実施                  | 第1回第三者評価委員会(協力校)                                               | 第1回第三者評価(協力校)<br>学校評価コンサルテーション                   |
| 11月 |                                               | 市学校評価運営委員会学校訪問                                                 |                                                  |
| 12月 | 学校調査の実施(2回目)                                  | 学校評価結果と改善方策の策定                                                 | 学校評価結果と改善方策の策定                                   |
| 1月  | 学校調査の分析<br>第三者評価への参加                          | 第2回第三者評価委員会(指定校)<br>市学校評価運営委員会                                 | 第2回第三者評価(指定校)                                    |
| 2月  | 第三者評価への参加<br>「研究のまとめ」の作成<br>学校評価コンサルテーション実施   | 第2回第三者評価委員会(協力校)<br>市学校評価運営委員会<br>教務・研修主任研修会<br>学校評価結果と改善方策の策定 | 学校運営の改善プログラム作成<br>第2回第三者評価(協力校)<br>学校評価コンサルテーション |
| 3月  | 「研究のまとめ」の配付<br>ホームページ公開<br>文部科学省への報告          | 実践事例集の作成<br>事業報告書作成・提出                                         |                                                  |

## 5 実施体制図



### Ⅲ 学校の課題解決のための仕組みづくり

#### 1 学校運営の活性化を支援する学校評価運営委員会の設置

##### (1) 目的

学校訪問や学校関係者評価に関する資料を基に課題を分析し、各関係機関の立場から評価の在り方や具体的な改善方策について提案することを通して、学校運営の活性化を支援する。

##### (2) 実施方法

|      |                                                                                                                   |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員構成 | 教育委員会外部評価委員、校長会代表、教頭会代表、市PTA連合会役員、地域の学識経験者（計8名）                                                                   |
| 実施日程 | 平成22年7月8日（木）事業説明、委員会設置<br>平成22年11月15日（月）研究指定校訪問、研究協議<br>平成22年11月22日（月）研究協力校訪問、研究協議<br>平成23年1月17日（月）学校関係者評価の在り方の検討 |

##### (3) 内容

ア 求められる学校づくりと学校評価の目的について共通理解を図り、市内の小・中学校における学校評価の推進状況について協議する。

イ 学校訪問を実施し、児童生徒の学習や生活の状況、家庭、地域との連携等、具体的な学校の取組を参観研修する。

ウ 学校、家庭、地域の連携協力による学校づくりのために、各学校における学校関係者評価の在り方や具体的な改善方策を検討し、学校へ情報提供する。

エ 学校関係者評価結果を活用した家庭、地域、関係機関との連携協力体制の在り方を探る。

##### (4) 成果と課題

学校評価運営委員会の学校訪問では、自校の取組や経験を基にした協議が行われ、近隣の学校が協力して互いの学校を評価する方法が、地域の学校間の連携を生み、それぞれの学校評価の充実につながることが確認された。また、研究指定校及び協力校における取組の成果を共有することができるなど、四国中央市全体の学校運営の活性化につながった。

学校評価運営委員会では、学校関係者評価委員の人選、人材の確保、小・中学校の連携、情報発信の方法等についての課題が明らかになった。次年度は、学校関係者評価の各校共通項目の設定や、各関係機関との連携方法の検討などに取り組むこととした。

学校経営においては管理職のリーダーシップが問われ、主任職等には、ミドルリーダーとしての活躍が期待されている。各学校が、本研究の成果を参考に、学校や地域の実態に応じて、独自の学校運営の改善の仕組みづくりに取り組む必要がある。



〔学校訪問〕



## 2 新たな気付きをもたらす第三者評価の実施

### (1) 目的

保護者や地域住民による評価だけでは期待しにくい、学習指導や学校組織マネジメント等について、専門性を有する評価委員により、自己評価、学校関係者評価で不足する点を補う。さらに新たな気付きをもたらすことで、学校の優れた特色や改善すべき課題などを明確にした学校運営の改善プログラムを作成する。

### (2) 実施方法

#### ア 実施方法

『よりよい学校づくりのために－第三者評価の手引き－』（愛媛県教育委員会平成21年度発行）に基づき実施する。

#### イ 実施形態等

| 実施形態 | Ⅱ型 連続2日間と1日間を分離した学校訪問型      |                                   |
|------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 委員構成 | 大学関係者1名、学識経験者1名、行政関係者2名 計4名 |                                   |
| 実施日  | 第1回目（2日間）                   | 研究指定校 9月13日・14日<br>研究協力校 10月4日・5日 |
|      | 第2回目（1日）                    | 研究指定校 1月20日<br>研究協力校 2月9日         |

#### ウ 実施日程

|                   | 市教育委員会                                                    | 第三者評価委員会                                         | 学 校                                              |
|-------------------|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 7<br>・<br>8<br>月  | ○ 第三者評価委員会の設置<br>・ 設置要綱作成<br>・ 日程調整<br>・ 委員委嘱<br>・ 実施要領作成 |                                                  | ○ 日程調整<br>○ 実施についての事前研修<br>○ 事前記入シート作成（実施2週間前まで） |
| 9<br>・<br>12<br>月 | ○ 第1回第三者評価の実施（2日間連続）<br>○ 中間報告書の活用                        | ○ 第1回第三者評価の実施（2日間連続）<br>○ 中間報告書の作成<br>○ 中間報告書の送付 | ○ 第1回第三者評価の実施（2日間連続）<br>○ 中間報告書の確認               |
| 1<br>・<br>3<br>月  | ○ 第2回第三者評価の実施（1日間）<br>○ 最終報告書の活用                          | ○ 第2回第三者評価の実施（1日間）<br>○ 最終報告書作成<br>○ 最終報告書の送付    | ○ 第2回第三者評価の実施（1日間）<br>○ 学校評価の相談・支援<br>○ 最終報告書の活用 |

### (3) 内容

#### ア 事前準備

- ① 市教委との連絡調整
- ② 事前記入シートの記入（校長自己評価）・提出
- ③ 自己評価結果資料、学校関係者評価資料

④ 訪問資料作成（日程、校舎配置図、授業一覧、グラウンドデザイン等）

⑤ 教職員への周知

イ 訪問当日（2日間）

① 管理職、教職員との面談・資料の調査

○ 共通評価領域（学校運営の状況について）

- ・ 学校組織運営の状況
- ・ 学校と設置者の連携の状況
- ・ 目標設定と自己評価の状況
- ・ 学校関係者評価の状況

○ 選択評価領域（次の3項目から学校が選択）

- ・ 授業等の状況
- ・ 指導と管理の状況
- ・ 学校と家庭、地域との連携協力の状況



〔学校訪問〕

② 学校関係者等との懇談

- 日常の教育活動や児童生徒の育ちについて
- 保護者の協力・連携状況

〔資料1 研究指定校の第三者評価調査日程表（Ⅱ型）〕

| 第 1 回 目（2日間）  |                   |                                                                                  |
|---------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 日 程           | 評 価 活 動 等         | 備 考                                                                              |
| 1 日目          |                   |                                                                                  |
| 9：30 ～ 9：50   | 評価委員・市教育委員会関係者集合  | ＜移動＞<br>・ 評価委員控室、<br>面談、昼食は、<br>応接室とする。<br>・ 授業参観は、評<br>価委員が、個々<br>に自由に巡回す<br>る。 |
| 9：50 ～ 11：00  | 評価委員打合せ           |                                                                                  |
|               | 市教育委員会との懇談        |                                                                                  |
| 11：00 ～ 12：00 | 管理職（校長・教頭）との面談    |                                                                                  |
| 12：00 ～ 12：50 | 昼食                |                                                                                  |
| 12：50 ～ 13：40 | 昼休み・清掃の観察         |                                                                                  |
| 13：50 ～ 14：35 | 授業参観①（4・5・6年）     |                                                                                  |
| 14：35 ～ 15：45 | 終わりの会・運動会係会参観     |                                                                                  |
| 15：45 ～ 16：15 | 校舎内施設見学・下校の観察     |                                                                                  |
| 16：15 ～ 17：15 | 教務主任・研修主任との面談     |                                                                                  |
| 17：15 ～ 17：45 | 評価委員の打合せ          |                                                                                  |
| 2 日目          |                   |                                                                                  |
| 7：20 ～ 7：40   | 登校の観察             | ・ 評価委員紹介<br>・ 授業参観は、評<br>価委員が、個々<br>に自由に巡回す<br>る。                                |
| 7：40 ～ 7：55   | 四国一周マラソンの観察       |                                                                                  |
| 8：00 ～ 8：30   | 職員朝礼・朝の会・ドリル学習の観察 |                                                                                  |
| 8：30 ～ 9：15   | 授業参観②（1・2・3年）     |                                                                                  |
| 9：25 ～ 10：10  | 授業参観③（運動会全校練習）    |                                                                                  |
| 10：20 ～ 11：05 | 授業参観④（特別支援学級）     |                                                                                  |
| 11：15 ～ 12：00 | 生徒指導主事・養護教諭との面談   |                                                                                  |
| 12：00 ～ 12：50 | 給食準備の観察、給食参加①     |                                                                                  |

| 日 程           | 評 価 活 動 等             | 備 考 |
|---------------|-----------------------|-----|
| 13:50 ～ 14:35 | 特別支援教育主任・コーディネーターとの面談 |     |
| 15:00 ～ 16:00 | 学校関係者評価委員との面談         |     |
| 16:00 ～ 17:00 | 評価委員報告書作成の打合せ         |     |

| 第 2 回 目 (1日間) |                       |                                  |
|---------------|-----------------------|----------------------------------|
| 日 程           | 評 価 活 動 等             | 備 考                              |
| 9:30 ～ 9:45   | 評価委員・市教育委員会集合         | <移動><br><br>・授業公開する学年・組は学校裁量とする。 |
| 9:45 ～ 10:10  | 教育委員会との懇談             |                                  |
| 10:20 ～ 11:05 | 授業参観⑤                 |                                  |
| 11:15 ～ 12:00 | 管理職との面談<br>学校評価の相談・支援 |                                  |
| 12:00 ～ 12:50 | 給食参加②                 |                                  |
| 13:00 ～ 13:30 | 昼休み                   |                                  |
| 13:30 ～ 15:00 | 評価シート記入               |                                  |
| 15:00 ～ 16:00 | 評価報告書の内容について協議        |                                  |
| 16:00 ～ 16:30 | 管理職との最終面談             |                                  |

#### ウ 面談・学校評価の相談・支援

##### ① 保護者アンケート・学校評価の分析・評価

事前に送付された資料（事前記入シート、自己評価結果、グランドデザイン、保護者・児童生徒のアンケート結果等）を基に面談し、自己評価及びアンケートの分析方法や改善方策、学校の様子を参観して捉えた課題について協議した。特に、授業実践について、教師の授業力を高めるための研修の在り方や、学力向上のための改善方策について、指導助言を行った。

また、保護者アンケート（P-TRUST）の結果について、保護者集団の構造分析を行い、学校評価の結果と併せて説明した。（保護者アンケートについては「V 学校運営の改善の成果の定量的な測定」P26参照）

##### ② 家庭、地域への情報発信の方法

学校からは、様々な方法で保護者や地域に情報を発信し、学校評価の結果についても各学校のホームページや学校通信などにより公表している。

ホームページによる情報発信は、多くの情報を多くの人に伝えることができるが、まだまだ受信率が低い。一方、学校だよりは、保護者や地域の人など大勢に情報を届けることができるが、限られた紙面の中で、多くの分量を伝えることは難しい。集まった人と直接対話することが、最も説得力のある情報伝達の方法であるが、懇談会やPTA総会などの参会率に影響される。学校から情報を伝える際には、発信する内容に応じて発信の方法を検討していく必要があることなどが協議された。

#### （４）成果と課題

学校関係者評価委員との面談では、学校関係者評価の在り方について確認するとと

もに、改善方策などについて活発に協議が行われた。

協議の中で、学校内で課題として捉えていることと、客観的な視点から指摘された課題との重なりやずれが明らかになった。特に、学力向上については、教師一人一人の授業力の向上が求められること、授業中の「読む」「聞く」「書く」のバランスを重視した授業改善が必要であることなど、新たな課題が指摘された。

実施後、研究指定校、協力校からは次のような感想があった。

- 学校のニーズに応じた評価項目を設定できた。事前記入シートでは、来校前に学校の実態を伝えることができた。
- II型の第三者評価により、第1回訪問で提示された課題について、第2回訪問で改善状況の評価を受けることができ、次につながる評価となった。また、連続2日間の評価により登校の様子、清掃、給食、遊び等、全ての教育活動を公開することができた。
- 面談により、具体的な改善策が提示された。客観的な視点による評価、建設的な助言を受けることができた。
- 評価者の学校を支援し、ともに学校を改善していこうとする思いや願い、共感的な姿勢が伝わってきた。
- 最初、教職員にとっては、見られるという意識が先行していたが、評価者と直接対話することによって、徐々に抵抗感がなくなってきた。学校評価が意識の中に定着し、指導と評価の一体化、日常化につながっている。
- 第三者評価を学校行事と併せて実施し、保護者、地域住民を含めた学校運営の状況を公開したい。

### 3 学校運営の改善方策をともに探る学校評価コンサルティングの実施

#### (1) 目的

学校訪問及び調査資料を基に実態把握を行い、専門的な視点から学校経営の課題を明らかにし、改善プランの作成や具体的改善方法についての情報提供や指導助言を行い、学校運営の質の向上を目指す。

#### (2) 実施方法

##### ア 実施形態等

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 実 施 校   | 研究指定校：四国中央市立三島小学校  |
| 指導助言者   | 愛媛大学教育学部 准教授 露口 健司 |
| 実 施 回 数 | 4回（半日単位）           |
| 対 象 者   | 校長・教頭・教務主任・研修主任    |

##### イ 実施日程

| 回数  | 実施日   | 対象者                | 準備資料等                              |
|-----|-------|--------------------|------------------------------------|
| 第1回 | 6月30日 | 校長、教頭              | 21年度学校評価結果<br>22年度教育計画<br>グランドデザイン |
| 第2回 | 9月2日  | 校長、教頭<br>教務主任、研修主任 | 1学期自己評価結果                          |

|     |        |                    |                                                        |
|-----|--------|--------------------|--------------------------------------------------------|
| 第3回 | 10月28日 | 校長、教頭<br>教務主任、研修主任 | 第1回第三者評価結果<br>2学期改善事項、改善計画                             |
| 第4回 | 2月10日  | 校長、教頭<br>教務主任      | 第3回第三者評価結果<br>学校関係者評価結果<br>アンケート結果<br>23年度学校運営の改善プラン原案 |

### (3) 内容

#### ア コンサルテーションの実施内容

| 回 | 実施日    | 実施内容                                                                                                                                                                                          |
|---|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 6月30日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度学校評価結果の分析</li> <li>今年度の学校運営</li> <li>自己評価項目の改善</li> <li>学校関係者評価の実施方法</li> </ul>                                                                  |
| 2 | 9月2日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>第1学期自己評価結果の分析と効果的な公表・活用</li> <li>自己評価結果に基づく具体的な改善方策の策定</li> <li>学校関係者評価の在り方</li> <li>学校関係者評価項目の改善</li> </ul>                                           |
| 3 | 10月28日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回第三者評価結果の分析と効果的な活用</li> <li>2学期改善事項実施状況等の検討</li> </ul>                                                                                               |
| 4 | 2月10日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>第2学期自己評価・第三者評価結果の分析と効果的な活用</li> <li>第2回第三者評価結果に基づく具体的な改善方策の策定</li> <li>アンケート結果分析と課題確認</li> <li>学校関係者評価の分析と課題確認</li> <li>次年度の学校運営の改善プランと評価計画</li> </ul> |

#### イ 研究指定校における学校評価コンサルテーションの実際

第3回学校評価コンサルテーションでは、1学期の自己評価結果及び第1回第三者評価の結果に基づき、学校の強みと課題を分析した。その内容を図1に示す。

| 〔学校の強み〕                                                                                                                                                                                                                                                                           | 〔学校の課題〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                               |                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                |                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員の学校の重点目標の共通理解</li> <li>○ 研修体制の充実</li> <li>○ 特別支援教育の充実</li> <li>○ 児童への生活支援（よい子のくらし）</li> <li>○ 四国一周マラソンの実施（朝マラソン）</li> <li>○ 不登校児童なし</li> <li>○ 保護者や地域との連携（家庭、地域への目標説明の方法、親子読書へ参加、かしの木隊の活動、親父達の会の活動）</li> <li>○ 学年メモファイルの活用</li> </ul> | <table border="1"> <tr> <td> <u>重要ではないが、<br/>すぐに着手する課題</u> </td><td> <u>重要であり、<br/>すぐに着手する課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による校内巡視</li> <li>・学校関係者評価の在り方</li> <li>・保護者の啓発</li> <li>・地域への情報提供の方法</li> </ul> </td></tr> <tr> <td> <u>もう少し様子を見る課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実</li> <li>・保護者の学校行事等への参加</li> <li>・若年教職員研修</li> <li>・教職員の地域行事参加</li> </ul> </td><td> <u>重要であり、<br/>検討に入る課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かしの木隊（見守り隊）の活動</li> <li>・グランドデザイン</li> <li>・学力向上プラン</li> </ul> </td></tr> </table> | <u>重要ではないが、<br/>すぐに着手する課題</u> | <u>重要であり、<br/>すぐに着手する課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による校内巡視</li> <li>・学校関係者評価の在り方</li> <li>・保護者の啓発</li> <li>・地域への情報提供の方法</li> </ul> | <u>もう少し様子を見る課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実</li> <li>・保護者の学校行事等への参加</li> <li>・若年教職員研修</li> <li>・教職員の地域行事参加</li> </ul> | <u>重要であり、<br/>検討に入る課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かしの木隊（見守り隊）の活動</li> <li>・グランドデザイン</li> <li>・学力向上プラン</li> </ul> |
| <u>重要ではないが、<br/>すぐに着手する課題</u>                                                                                                                                                                                                                                                     | <u>重要であり、<br/>すぐに着手する課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による校内巡視</li> <li>・学校関係者評価の在り方</li> <li>・保護者の啓発</li> <li>・地域への情報提供の方法</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                               |                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                |                                                                                                                                  |
| <u>もう少し様子を見る課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実</li> <li>・保護者の学校行事等への参加</li> <li>・若年教職員研修</li> <li>・教職員の地域行事参加</li> </ul>                                                                                                                                    | <u>重要であり、<br/>検討に入る課題</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かしの木隊（見守り隊）の活動</li> <li>・グランドデザイン</li> <li>・学力向上プラン</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                               |                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                |                                                                                                                                  |

〔図1 学校の強みと課題の分析〕



課題として挙げられた項目について、学校評価コンサルテーションにおいて話し合いを進めながら分類し、「重要であり、すぐに着手する課題」として次の4点を重点課題に設定すると同時に、学校が重要な課題として認識していた学力向上プランについても取り組むこととした。

#### 〔具体的な改善方策〕

##### ○ 管理職による校内巡視

校内の「見守り」を一日の中に位置付けた。

##### ○ 学校関係者評価の在り方

「項目が多すぎて焦点化できない」「学校関係者評価委員が、学校生活での様子を十分に把握できていない」などの課題を踏まえて、これまで3学期に1回実施していた学校評価委員会を、8月と2月の年間2回実施することとし、評価委員には、事前に資料を送付するようにした。また、グランドデザインを基にした意見交換を行うなど、委員会の内容を改善した。

さらに、学校関係者委員に参観日や学校行事等に積極的に参加してもらえるように働き掛け、来校時に簡単な評価をもらうことなどを確認した。

##### ○ 保護者への啓発及び地域への情報提供の方法

月2回発行している学校だよりを、保護者だけでなく学校関係者、かしの木隊（見守り隊）及び公民館等に配布するとともに、ホームページにも掲載し、より多くの人に学校の情報を提供するようにした。学校の働き掛けにより、保護者アンケートの結果では、「学校だより等、学校からの配布プリントによく目を通している」と答えた保護者は58.2%（平成22年度）であり、平成21年度（42.6%）から増え、成果が確認されている。



〔資料2 学校だよりによる情報発信（学校評価の結果報告）〕

### 学校関係者評価委員会が開かれました！

2月21日（月）に、学校関係者評価を行いました。学校評議員さんや公民館主事さん、PTA会長さんの列席のもと、今年度の本校の取組と評価について話し合いました。今年は、話し合いだけでなく評価シートにも記入していただきました。その結果の数値を平均し、100点中何点かでまとめたのが右下の表です。

協議では、主に「あいさつについて・安全安心な学校づくりについて・PTA活動の活性化に向けて」いろいろご意見をいただきました。

○ こちらから声をかけ続けることで、あいさつを習慣化させる。あいさつは、声を出すと言うことで不審者対策にもつながる。

○ 集団下校はかなり定着し安全に帰れている。通学路を通ることの大切さを繰り返し教え、「自分の命は自分で守る」という意識を高めさせる。

...

学校関係者評価委員さんからいただいた評価も取り入れさせていただきながら、来年度もよりよい学校となりますよう努力していきます。

| 評 価 の 観 点                                                | 平 均  |
|----------------------------------------------------------|------|
| 1 学校の教育目標の達成に向けて具体的な目標を設定し、校長を中心に組織的に学校運営や教育活動をおこなっているか。 | 97.5 |
| 2 自己評価結果を分析して具体的な改善方策を実施し、課題が改善されているか。                   | 82.5 |
| 3 教育活動や評価結果に対して、分かりやすく情報提供できているか。                        | 82.5 |
| 4 保護者、地域住民は学校運営に積極的に参加・協力しているか。                          | 82.5 |
| 5 学校関係者評価委員会は、適切に運営されているか。                               | 77.5 |
| 6 教職員は、生き生きと教育活動に取り組んでいるか。                               | 92.5 |
| 7 児童は、友達となかよく元気に活動できているか。                                | 97.5 |
| 8 安全で、安心な教育環境になっているか。                                    | 82.5 |

ご協力本当にありがとうございました。

〔資料3 学校だよりによる情報発信（学校関係者評価の結果報告）〕

#### ○ 学力向上プラン

愛媛県学力診断調査を活用し、児童の課題を把握し、手だてを探る。特に、自主学習については、家庭と協力しながら「自主学習ノート」を活用して児童一人一人に関わり、指導を徹底することとした。

#### ウ 学力向上についての助言

第3回、第4回の学校評価コンサルテーションでは、学力向上についての取組の成果を愛媛県学力診断調査〔児童質問紙調査〕を活用し検証を行った。49の質問を学力に相関する次の七つの要因に分けて分析する。

#### 【学力に相関する七つの要因】

- 生活習慣要因…「朝食を毎日もりもり食べていますか。」など8項目
- つながり要因…「学校には、何でも相談できる友達がいますか。」など6項目
- 学習習慣要因…「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」など8項目
- 規範意識要因…「学校のきまりを守っていますか。」など6項目
- 生き方要因…「将来の夢や目標をもっていますか。」など4項目
- 学習意欲要因…「国語の勉強は好きですか。」など9項目
- 授業実践要因…「授業ではノートをていねいに書いていますか。」など8項目

7月と12月に行った調査結果を比較したところ、特に、5年生の学習意欲や学習習慣が大きく向上していることが確認された。

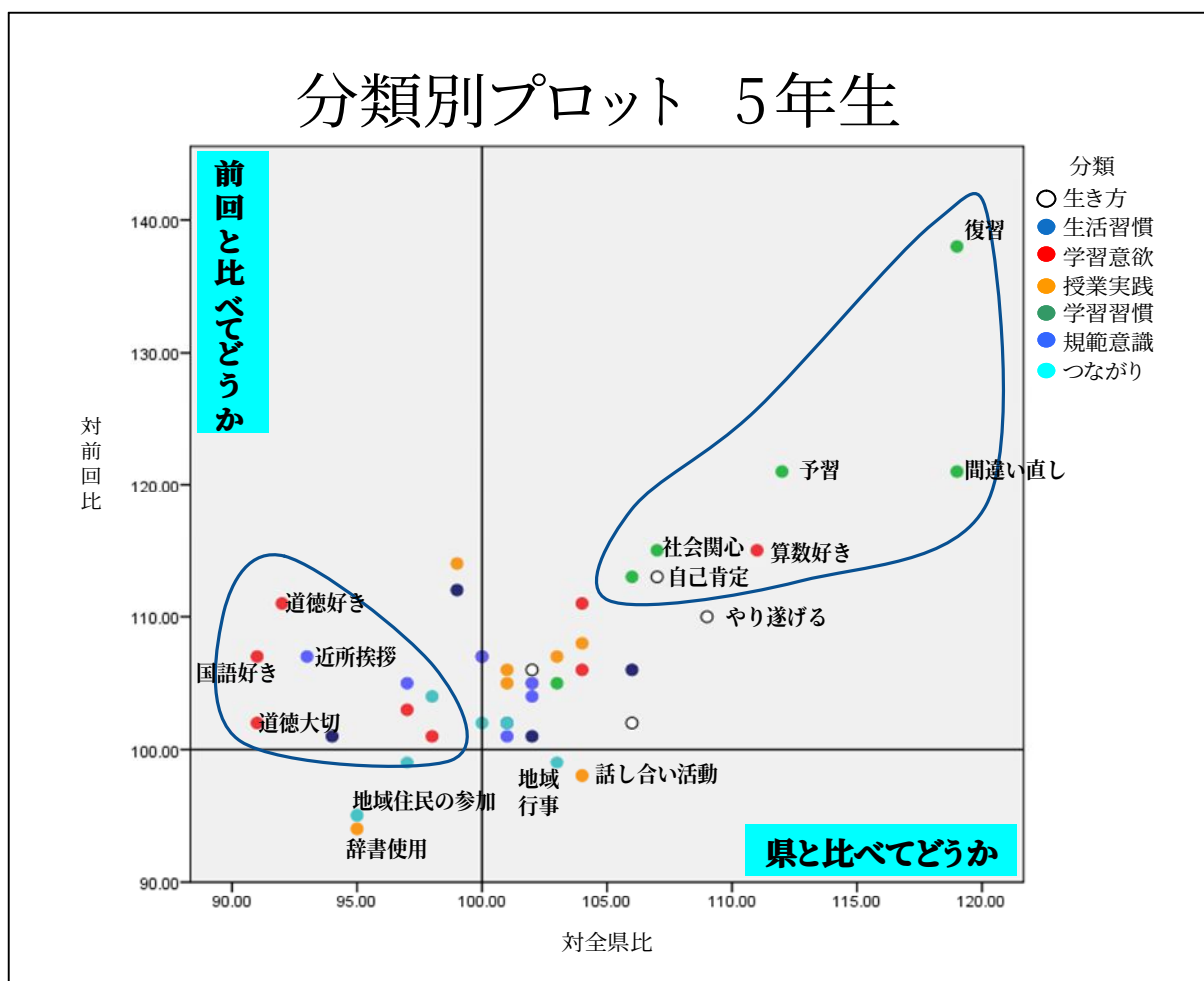
図2のように、7月の5年生の調査結果では、「生き方」「つながり」「授業実践」以外の4項目は全て県平均水準値を下回る結果であったが、12月の結果では、「生活習慣」に関する要因が県平均に届かなかったものの、どの項目も大きく向上した。特に、「学習習慣」に関する要因については、大きな伸びが見られた。県平

均水準値は、調査を行った  
54校の小学校のデータを基  
にしている。

| H 2 2 . 7              |               | H 2 2 . 1 2            |
|------------------------|---------------|------------------------|
|                        | +             | 生き方 学習習慣               |
| 生き方<br>つながり<br>授業実践    | ↑<br>県平均<br>↓ | つながり 授業実践<br>規範意識 学習意欲 |
| 生活習慣 学習習慣<br>規範意識 学習意欲 | —             | 生活習慣                   |

〔図2 5年生の学力相関要因相互関係の変化〕

図3は、それぞれの項目が7月調査と比較して、また県平均水準値と比較してどのように変容したかを示している。この図を見ると、予習、復習や間違い直しなどの「学習習慣」に関する項目が特に大きく伸びていることが分かる。また、「算数が好き」の「学習意欲」に関する項目も大きく向上しており、「道徳が好き」「国語が好き」という項目については、県平均には達していないが、前回調査に比べると伸びが確認できる。



〔図3 県平均及び7月調査との比較〕



#### (4) 成果と課題

##### ア 研究指定校における成果

研究指定校の教職員を対象に実施したアンケートでは、「学校評価は保護者、地域との連携に効果があるか」の問いに対して肯定的に答えている教職員が88.6%（平成22年度）であり、昨年度（67.7%）に比べ増加している。学校評価システムが家庭、地域とのコミュニケーションツールとして活用できるということに対して、教職員の理解が進んでいることが分かる。

また、同アンケートにおいて、「学校評価により自校の課題が明確になる」と肯定的に答えている教職員の割合は表1にあるように100%（平成22年度）であり、前年度（81%）に比べ伸びている。自校の課題の抽出や、課題の共有の大切さ、コミュニケーションツールとしての有効性を実感し、学校評価に対する理解と期待が高まったことが伺える。

〔表1 アンケート結果〕

このような成果の大きな要因は、助言者による調査データの分析と、具体的改善策の提示によるものと考えられる。研究指定校におけるヒアリングでは、学校評価コンサルティングの

| 項目                  | 平成22年度 | 平成21年度 |
|---------------------|--------|--------|
| 保護者・地域住民との連携に効果がある。 | 88.6%  | 67.7%  |
| 自校の課題が明らかに<br>なる。   | 100%   | 81.0%  |

有効性として、次の点が挙げられている。

- アンケート等の分析により数値化することの重要性を認識した。
- 助言者の研究に基づく説明と、提示された資料には説得力があり、学力向上や学校運営の改善において、有意義である。
- 専門性の高い助言によって、学校が感じていた課題に対する解決方法の発見に結び付いた。
- 具体的な改善策が提示されたことにより、マンネリ化から学校運営を脱却させるきっかけとなった。

研究指定校では、研究を基に学校運営の改善プログラムを作成した。このプログラムでは、PDCAサイクルの前段階として、学校評価の結果等を踏まえ、校内研修でのワークショップによって自校の強みと課題を分析するR（リサーチ）の過程を重視している。情報収集や実態把握を十分に行って、RPDCAの五つの改善サイクルを繰り返すことで地域に開かれた学校づくりを目指すこととしている。

##### イ 学校評価コンサルティングの成果と課題

第三者評価と併せ、学校評価コンサルティングを行うことで、気づきににくかった学校の課題を明確にすることで、改善への方策が示され、学校の教育力を高めることができた。

特に、助言者によるアンケート結果の分析や専門的視点からの助言、さらには学校運営の改善の成果が定量的に測定され、数値で確認できたことが成果につながっている。

また、学校評価コンサルテーションは、自己評価や学校関係者評価の後に実施されることが一般的であるが、研究指定校では事前に実施したことで、教職員の学校評価に対する共通理解を図り、今年度の学校関係者評価の改善につなげることができた。

学校評価コンサルテーションは、校長、教頭、教務主任、研修主任を対象として行ったが、教職員からは全員を対象にコンサルテーションを実施してほしかったとの要望があった。今後、時間や実施日及び対象の設定については検討の必要がある。

## Ⅳ 学校評価の充実のための研修の在り方

### 1 学校評価推進事業管理職研修会

#### (1) 目的

学校を変えるためのツールとして、管理職が学校評価に能動的に取り組むよう意識改革を図るとともに、自校の課題解決につながる効果的な学校関係者評価の進め方について研修を行う。

#### (2) 対象

市内幼稚園、小学校、中学校の管理職

#### (3) 実施内容

ア グランドデザイン作成に向けての取組紹介

四国中央市立三島小学校 教頭 西 博文

イ 講話 「信頼構築につながる学校関係者評価の在り方」

愛媛大学教育学部 准教授 露口 健司

#### (4) 研修の概要

ア グランドデザイン作成に向けての取組

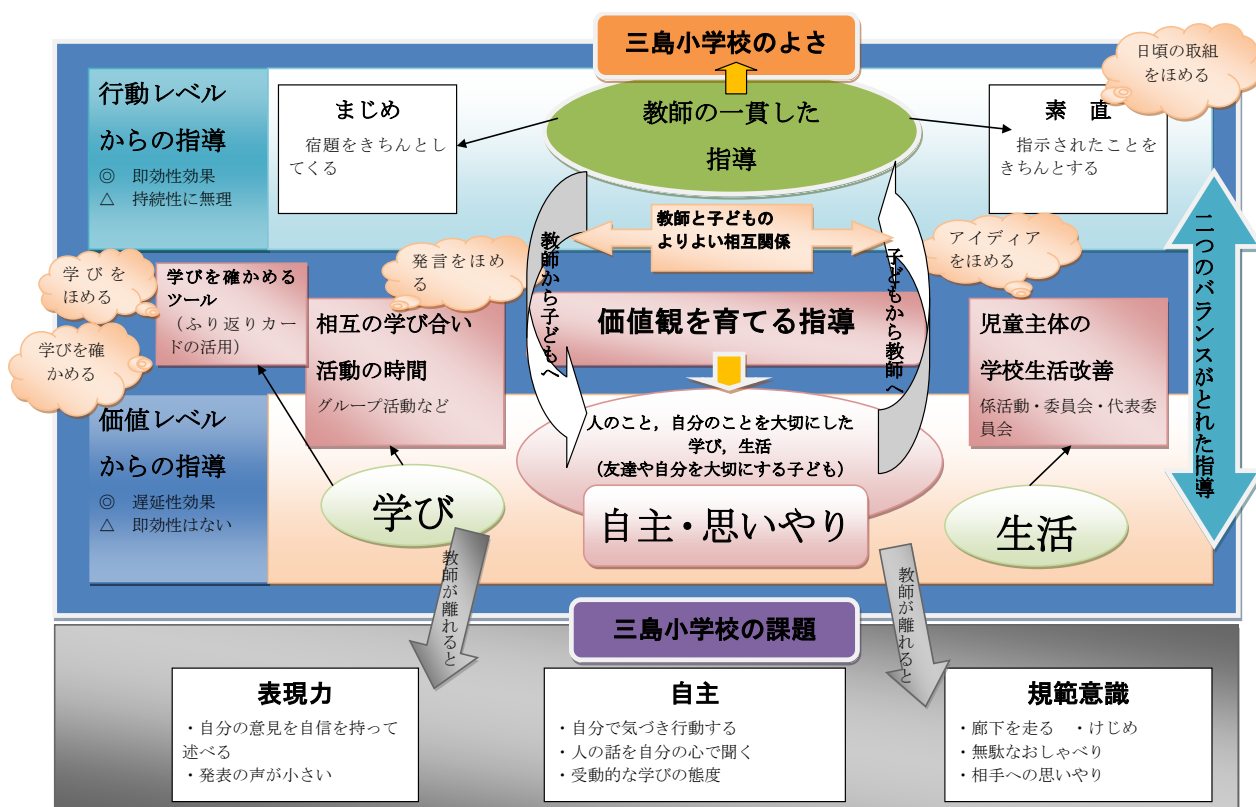
学校のよさと課題についてワークショップを行い、自己評価、学校関係者評価、保護者アンケート等の結果と、学習面、生活面で日頃感じている教職員の思いや願いを基に意見を交換した。そこで見いだされた自校のよさと課題【図1】を取組方向シート【図2】に整理し、協議しながら重点目標と具体的な取組事項を決定し、グランドデザインにも位置付けた【図3】。さらに、学校評価の項目も重点目標に合わせて検討して決定した。この一連の活動を通して全ての教職員が、課題を共有し、確認することができ、今年度の学校の教育目標と学校評価に対する意識を高めることにつながった。



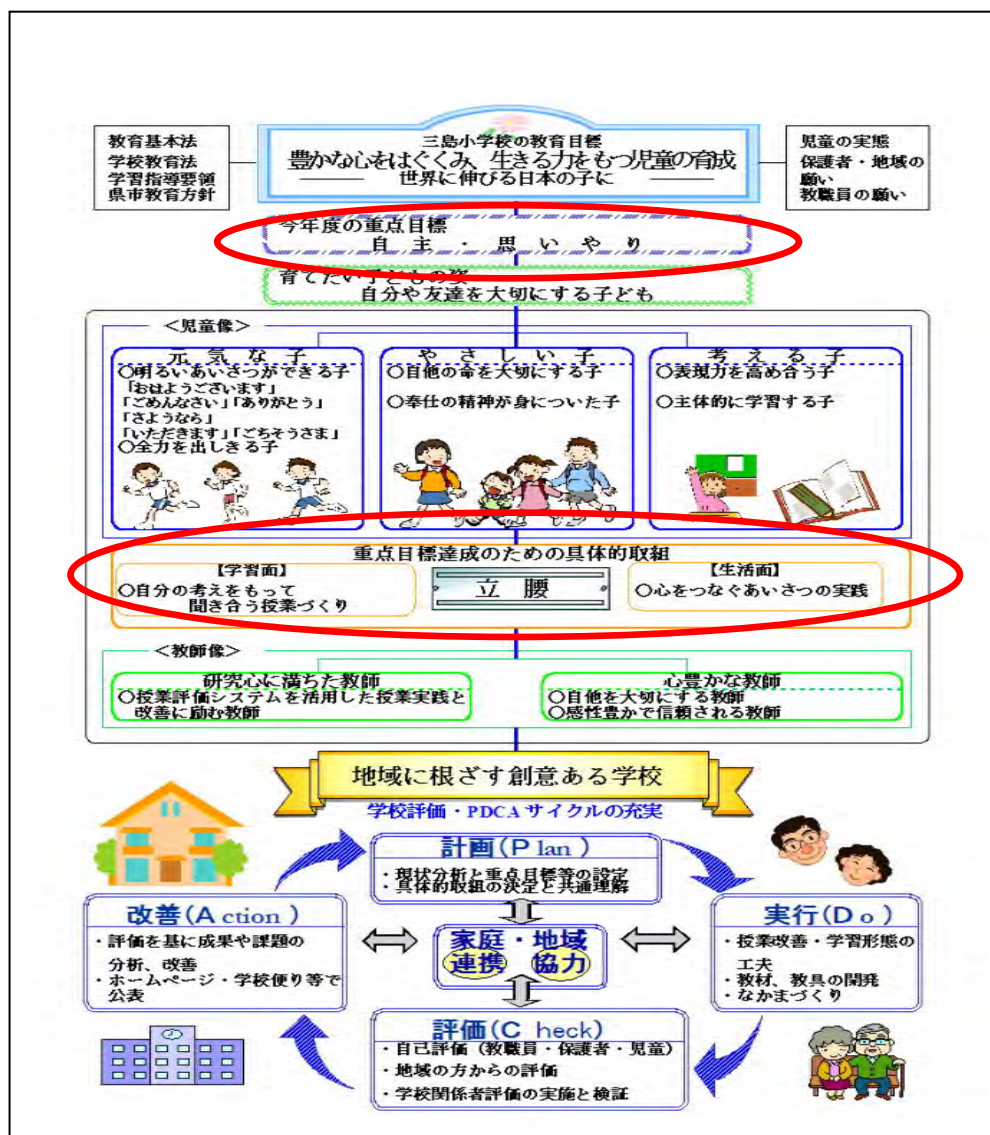
〔研修の様子〕

|    | 学習面                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 生活面                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| よさ | <p>〈言われたことはできる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は真面目にできる（与えられたもの）</li> <li>・与えられたことは取り組みとうとする</li> <li>・基礎基本に忠実に学ぼうとしているところはいいことだと思う</li> </ul> <p>〈地域・家庭〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読カードなど、家庭の協力が必要なものの協力体制がとれている</li> <li>・学習環境が恵まれている（地域施設・人的環境など）</li> </ul> <p>〈意欲面〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものを作ったり絵を描いたり興味関心意欲がある</li> <li>・知らないことをどんどん調べたいという気持ちをたくさん持っている</li> <li>・わからない言葉を進んで辞書で調べることができる</li> <li>・元よく発表できる（学年に差があるが）</li> <li>・自信を持てたことはとても積極的に取り組める</li> </ul> <p>〈態度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に落ち着いて学習に臨んでいる（教師の指導の成果）</li> <li>・朝の読書がだまってる</li> <li>・作業に集中したときはだまってるとても熱心に見える</li> <li>・グループ学習の時、協力しあって活動できる</li> </ul> | <p>〈仲間づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が仲良しである</li> <li>・男女とも笑顔がとってもいい</li> <li>・友達が困っていることに気づいて声をかけることができる</li> <li>・なかまの日を楽しみにしている</li> <li>・休み時間とても元気いっぱい、外遊びも多い</li> </ul> <p>〈あいさつ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めと終わりのあいさつは元よく言える</li> </ul> <p>〈責任感〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会や係の仕事に責任を持てることができる子もいる</li> </ul> <p>〈個性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あつげらかんとしているのでしかられても尾を引きにくい</li> <li>・すなおな面</li> </ul>                                                                                                                       |
| 課題 | <p>〈自主的な学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から学習を見つけて自発的に学習する習慣が形成されていない</li> <li>・欲がない。勉強をさせられている意識が強く、自ら学ぼうとする力が弱い</li> <li>・知識の習得段階に留まっていて、活用探究する段階になっていない</li> </ul> <p>〈人前での発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを相手に上手に伝えることが難しい子が多い</li> <li>・発表の音が小さい</li> <li>・決まった子が発表していることが多い</li> <li>・自信がないことは発表しない</li> <li>・自分の言葉で話す、表すことが苦手</li> </ul> <p>〈けじめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びと学習とのけじめがつかにくい</li> </ul> <p>〈学び方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料やデータをもとに考える、気づくことが困難な子が多い</li> </ul> <p>〈聞く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見をじっくり聞けないため、自分の考えと比較できないでいる</li> </ul>                                                  | <p>〈規範意識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々には高い。集団でも高められるか。</li> </ul> <p>〈忘れ物〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まった子が宿題忘れや持ち物忘れがある</li> <li>・忘れ物が多い</li> </ul> <p>〈聞く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりと話が聞けない</li> <li>・注意されたとき素直に聞けない</li> </ul> <p>〈あいさつ・返事〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のあいさつができていない</li> <li>・返事をしない</li> <li>・あいさつをしても知らん顔の子が多い</li> <li>・一人ではなかなか進んであいさつができない</li> <li>・返事、あいさつの習慣が集団になると発揮できない</li> <li>・トイレのスリッパが揃わない</li> </ul> <p>〈態度・言葉遣い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あーす」=ありがとうございます・変にかっこつけ</li> </ul> |

〔図1 ワークショップの結果〕



〔図2 取組方向シート〕

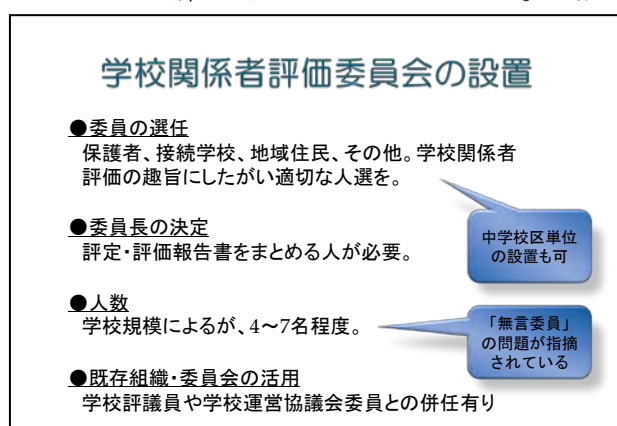


〔図3 グランドデザインへの位置付け〕

また、保護者アンケートや、毎月第3週に行っている児童生活アンケート「よいこのくらし」の質問項目を見直し、一つの目標に向けて一貫して取り組むよう工夫・改善を行った。

#### イ 信頼構築につながる学校関係者評価の在り方

学校評価全体の目的、実施形態を再確認するとともに、学校関係者評価委員会の構成について理解を深めることができた。〔図4〕

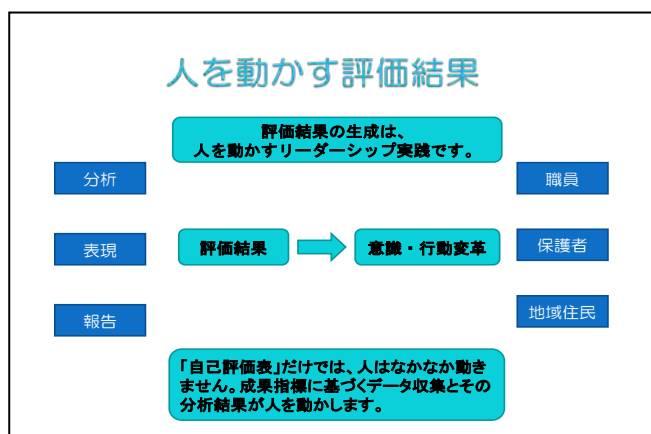


〔図4 学校関係者評価委員会の設置〕

学校評価においては、教職員、保護者、地域の人々の意識改革、行動改革につながるよう、成果指標に基づくデータ収集と的確な分析が重要である。

説得力のある評価結果は、人を動かすことができる。学校が、評価結果について分かりやすく納得できるデータを示すことは、保護者や地域に対してリーダーシップを発揮することとなる。〔図5〕



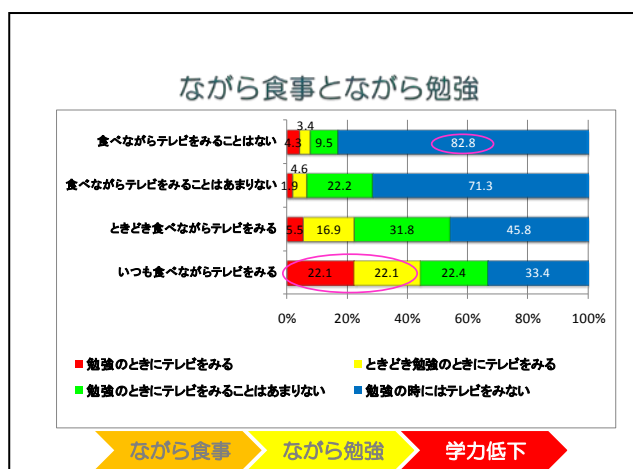


〔図5 人を動かす評価結果〕

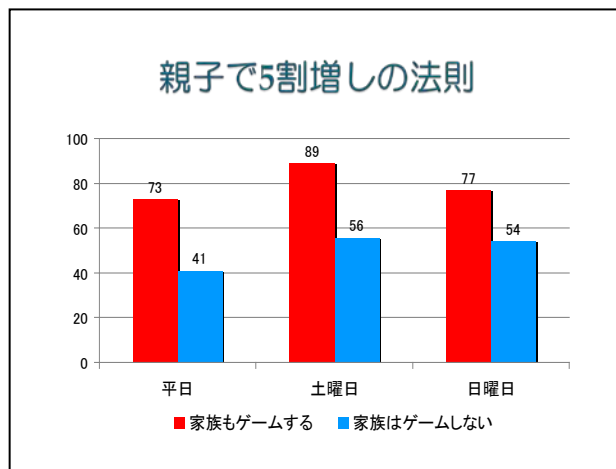
例えば、「食べながらテレビを見ることはない」と回答した子どもは、82.8%が「勉強の時にはテレビを見ない」のに対して、「いつも食べるときにテレビを見る」と回答した子どもは、「勉強の時にテレビを見る」割合が高くなる傾向がある。

また、家族がゲームをする家庭の子どもは、ゲームをする時間が、家族がゲームをしない子どもの1.5倍となるというデータがある。このように、学力向上と生活習慣の相関関係を示すために、図6や、図7の

ような情報を示して、保護者を啓発し、協力を求めることができる。



〔図6 ながら食事とながら勉強〕



〔図7 親子で5割増しの法則〕

## (5) 研修の成果

講話では、具体的な分析データを提示しながら、保護者や地域を巻き込んだ学校運営の改善の手だての例が示された。

学校関係者評価の在り方を見直し、改善・充実させることにより、共感的な理解が得られること、学校のよき理解者、支援者が増えることなど、期待される効果は大きい。ともに考え、行動して学校をよりよい方向へ改善していくよう、意識を転換することの重要性が示唆された研修であった。

## 2 学校関係者評価委員研修会

### (1) 目的

学校、家庭、地域を結ぶコミュニケーションツールとして学校関係者評価を活用し、学校運営の改善を図るための連携協力の在り方について共通理解を深め、具体的な方途を探る。

### (2) 対象

市内小学校、中学校の学校関係者評価委員及び教職員  
四国中央市学校評価運営委員



### (3) 実施内容

- 講話 「学校関係者評価 ― 評価を学校改善につなぐために ―」

愛媛大学教育学部 准教授 露口 健司

### (4) 研修の概要

平成21年度に四国中央市が行った学校評価実施状況調査を分析した結果は、学校関係者評価委員会の運営及び評価の在り方については、各校独自の取組となっており、評価委員の人数や構成メンバー、評価の方法など、学校間の違いが大きいことが分かった。意見聴取のみで終わっている学校もあり、学校、家庭、地域社会が一体となっ



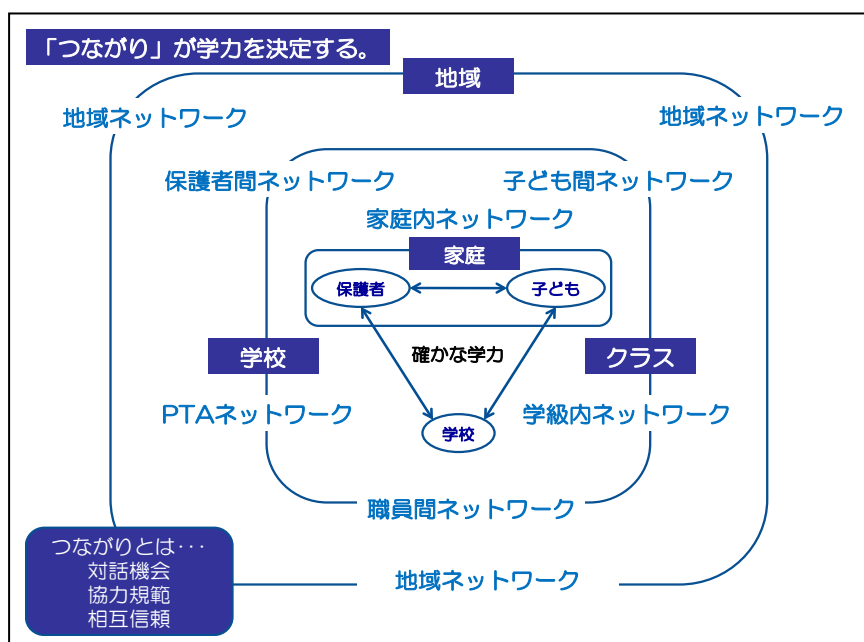
〔研修の様子〕

て取り組む学校評価について、市教育委員会が方向性を示しきれていないという課題があった。

そこで、市内全小・中学校の学校関係者評価委員が一堂に会して研修を行った。教職員を含め、180名余りの委員が集まり、グループでの意見交換を交えた研修を実施した。これまでにはなかった研修内容とあって、幅広い年齢層の委員それぞれの立場から積極的に意見を述べ、活発な情報交換が行われた。

#### ア 学校評価の意義

子どもたちを取り巻く様々なネットワークが児童生徒の学力に関係する。地域、家庭、保護者、子ども同士のつながりが大切であり、学校関係者評価は、学校と地域を結び付けるものである。〔図8〕



〔図8 つながりと学力〕

#### イ 学校関係者評価委員の役割

「聞く」「見る」「話す」ことが学校関係者評価委員の役割であり、よりよい学校づくりのために、何を聞き、何を見て、何について話すかが大切である。〔図9〕

#### ○ 「聞く」何を、どのように聞くのか

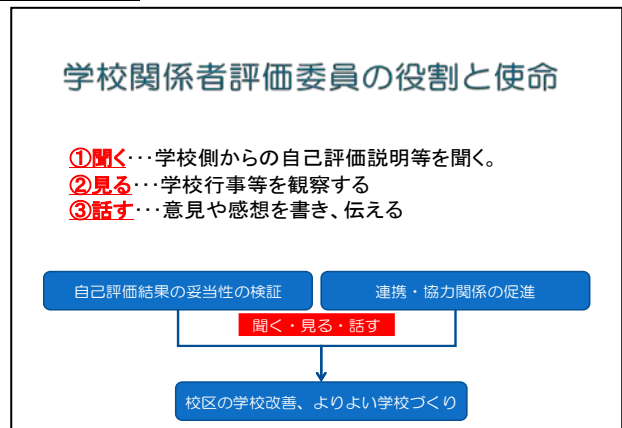
学校のグランドデザインについて、誰が見ても分かりやすく、具体的であるか、また、魅力的な目標が掲げられているかという観点で説明を聞く。

自己評価の説明については、今年度の取組状況や前年度の評価の結果を踏まえた改善の状況等について説明を聞く。

○ 「見る」 どのような観点から、何を見るのか

よりよい学校づくりのために、学校の重点目標などについて、学校が提示する観点や自分の固有の観点で見る。

学校行事や授業参観など、実際に学校を訪問して、教育活動の様子を見るとともに、地域での子ども様子を見る。また、教職員や保護者、子ども等との会話から様子を知ることができる。そして、「この学校（子どもたち）の何が伸びているか」「この学校（子どもたち）の何が課題か」成果と課題をしっかりと見取ることが必要である。



〔図9 学校関係者評価委員の役割と使命〕

○ 「話す」 何を、どのように話すのか

目標が達成されている事項は、しっかりと賞賛する。言葉や文書による感謝は学校のやる気を向上させる原動力である。また、困難な課題に取り組んでいる学校では、持続的な激励と支援が大切である。

学校が認識している課題を提示することは、その課題に対する意識を強化することにつながり、学校が認識していない課題の提示は、新たな気づきにつながる。改善方策について話す際は、「こうして欲しい」という姿勢での提案ではなく、学校と保護者、地域で改善に向かう取組について話し合い、「こうしましょう」という提案が学校運営の改善につながる。

ウ グループ協議

グループごとの話し合いでは、それぞれの学校の取組について情報交換を行った。学校関係者評価委員の学校との関わりは、「学校行事への参加」が最も多く、続いて「校長、教頭との対話」が多い。一方、参観授業に参加している委員は半数以下であり、「案内があれば、ぜひ参加したい」との声があった。

また、委員が学校の情報を得る方法としては、「学校での諸会合等での対話」が最も多く、「直接会って話すこと、実際に学校に足を運び、学校の様子を直接見ることが大切になりたい」との話があった。学校よりも情報を得る身近なツールとなっている。

(5) 研修の成果

参加者からは、研修後「資料、説明ともに分かりやすく、参考になった」「学校関係者評価委員として、お互いに声を掛け合える関係づくりに努めたい」「学校が元気になるように学校を応援したい」「学校の成果と課題について、積極的に意見を述べ、協力したい」「学校行事や授業参観に積極的に出席したい」などの感想が寄せられるなど、学校関係者評価委員を対象とした研修は有意義であった。

今後、学校からの情報発信の継続と工夫改善、信頼関係を築くための評価委員会の運営方法、学校行事や授業参観等の学校を直接見る機会の確保などについて検討していく必要がある。

### 3 教務・研修主任研修会

#### (1) 目的

主任職の職務内容やその役割を明確にするとともに、学校の諸問題についての研修を深め、主任職としての資質の向上と使命感の高揚を図る。

#### (2) 対象

市内小学校、中学校の教務主任及び研修主任

#### (3) 実施内容

ア 平成22年度学校評価指導者養成研修（独立行政法人教員研修センター主催）  
参加報告

四国中央市立三島南中学校 教頭 原田 周範

四国中央市立川滝小学校 教頭 上野 直記

イ 指導講話 「評価に焦点を当てた学校改善を目指すリーダーシップ実践」  
愛媛大学教育学部 准教授 露口 健司

ウ 分科会 演習「実効性のある自己評価を目指して」  
教務部会・研修部会での自己評価シートを活用したワークショップ

#### (4) 研修の概要

ア 学校評価推進者養成研修報告

中学校の報告では、学校評価に対するマイナスイメージを取り除き、学校評価によって教師が元気になり、子どもが生き生きと活動できるようになることを目指し、学校評価を見直す六つの視点について発表があった。〔図10〕

組織的に学校評価を推進することで、当事者意識が高まるとともに、そのことによって、負担感や「やらされた感」がなくなり、多角的、多面的に学校評価を見直すことができる。さらに、組織として継続した取組ができることなど、学校の実態に合わせ、効果的な学校評価を展開するための視点が報告された。

小学校の報告では、学校評価を学校運営の改善のツールとするための五つのポイントについての発表があった。〔図11〕

- ① 結果を読み、教師の自信につながる評価となるよう、数年先を見通した、戦略的な評価活動を行おうとする逆PDCAの発想をもつ。
- ② 7月に評価をし、9月からの改善に備えて8月に中間報告をするスピード感のある取組をする。
- ③ 目に見える効果を実感し、自信につながる評価、優しく厳しく、自分のための学校評価であるという意識をもつ。

#### 自分の学校評価を見直す視点

- 1 校長のビジョンから、学級経営案まで、整合性がありますか？
- 2 評価の結果が、次に生かされていますか？
- 3 現状分析に対応した努力事項が設定され、評価項目となっていますか？
- 4 評価指標が適切ですか？
- 5 組織的な関わりをしましょう。
- 6 評価項目の重点化を図りましょう。

〔図10 学校評価を見直す視点〕

#### 学校評価を学校改善のツールとする5つのポイント

- 逆PDCA
- 8月こそ勝負
- 楽しい評価
- ベクトルを太く
- 本気で変えよう

〔図11 五つのポイント〕

- ④ ありのままの姿を伝えることによって保護者や地域からの信頼を得ることができ、地域や保護者を巻き込むことができる取組をする。
- ⑤ 強いリーダーシップを発揮し、目指す生徒像、学校像、教師像を見据えた本気の取組をする。

#### イ 指導講話 「評価に焦点を当てた学校改善を目指すリーダーシップ実践」

次の三つの点について、専門的な視点から、事例やデータの分析を交えての講話を行った。

##### ① 学校評価の課題探索

やりがいを感じられるかどうかは、理想と現実のバランスによる。このような学校にしたいという強い理想をもち、現実結び付いたとき、やりがいを感じることができるが、バランスが悪いと、負担感や焦燥感を感じたり手抜きを取組になったりして、成果のある学校評価にはつながらない。



〔指導講話の様子〕

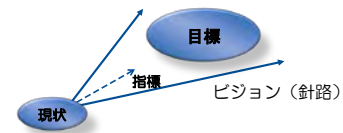
##### ② 目標と成果指標の設定

ビジョンとの連鎖関係、魅力的であることなど、目標と成果資料の設定方法が大切である。〔図12〕

また、自己評価の成果指標は、「努めた」「取り組んだ」ではなく、「できた」「向上した」等の成果指標の設定が必要である。学校関係者評価、第三者評価ともに、自己評価の結果が基となる。結果から改善につながるよう、明確で客観的な指標となるよう配慮する。〔図13〕

#### Session 2 目標と成果指標の設定

- ☐ 上位目標(ビジョン)との連鎖関係がある
- ☐ ぜひとも達成したいと思える魅力的な目標
- ☐ 一定の努力を要する困難な目標
- ☐ メンバーが目標設定に主体的に関与し、目標を受容している
- ☐ 目標の視点から日常的な振り返りができる



〔図12 目標と成果指標の設定〕

##### ③ 評価データの作成・活用法

データ収集における配慮事項、教職員や保護者を動かすデータ分析及び表現の方法、評価結果に基づく報告協議の設定について説明した。

図14、15は、保護者と教職員による評価を比較したものである。分析方法を工夫し、グラフ化することによって、教員の評価と保護者の評価との間にずれが生じていることが分かる。ずれをなくすためには、教職員の評価指標を見直すとともに、意識を変えることが必要である。分析に基づいたグラフは、授業改善や指導方法の見直しの必要性など、多くの課題に気付く重要な資料となる。

#### 人を動かす成果指標の設定を

- 目標を設定する場合、それが達成できたかどうかを確かめる指標の設定が必要となります。
- 成果指標の設定においては、次の点に配慮しましょう。
  - ① 努力指標ではなく、結果指標
  - ② 明確で客観的な指標
    - ・ 数値指標 (到達ポイントを数値で表現する)
    - ・ スケジュール指標 (特定の時期までに何かをやり終えることを示す)
  - ③ 誰もが理解できるわかりやすい指標

〔図13 人を動かす成果指標〕

このように、人を動かすデータとなるよう、分析の仕方と示し方を工夫すること



のほか、保護者アンケートを回収する際、封筒を用意して厳封措置をすること、集計は、学級担任以外がすること、アンケート結果を必ず保護者に報告することなど、回収率を高めるための工夫や配慮を紹介した。

| 教職員による評価の肯定率                           |       | 自ら鍛える生徒    |
|----------------------------------------|-------|------------|
|                                        |       | 豊かな心を育てる生徒 |
|                                        |       | 自ら学ぶ生徒     |
| 項目                                     | 全校    |            |
| 17 生徒の心身の健全育成を目指した部活動(がんばり抜く部活)        | 100.0 |            |
| 3 積極的な読書                               | 100.0 |            |
| 1 学校の実態に合った本校の教育目標                     | 100.0 |            |
| 15 ものを大切にし、意欲的な清掃活動(無言清掃等)             | 95.2  |            |
| 7 共通理解のもと、生徒一人一人を大切にした生徒指導             | 95.2  |            |
| 4 楽しく分かりやすい授業                          | 95.2  |            |
| 16 積極的なボランティア活動(ブルタブ回収運動等)             | 90.5  |            |
| 14 生徒一人一人の特性に応じた指導                     | 90.5  |            |
| 13 生徒一人一人の希望進路の実現に向けた適切な指導             | 90.5  |            |
| 10 生徒の人権意識を高める指導                       | 90.5  |            |
| 9 生徒の道德心を高める指導                         | 90.5  |            |
| 11 生徒の思い出に残る学校行事                       | 85.7  |            |
| 19 保護者や地域に積極的な情報提供・地域の教育力の活用           | 81.0  |            |
| 8 いじめがなく、楽しい場所                         | 81.0  |            |
| 12 自主的かつ協力的な学校、学年、学級の活動                | 76.2  |            |
| 6 規範意識をもった生活(ア・ハ・ハ運動＝あいさつ、はきもの、はいの返事等) | 76.2  |            |
| 2 意欲的な学習への取組、基礎・基本の定着(討論・反復学習)         | 66.7  |            |
| 18 清潔で安全、安心して生活できる施設・設備                | 61.9  |            |
| 5 家庭学習の習慣                              | 33.3  |            |

〔図14 教職員による評価の肯定率〕

| 保護者による評価の肯定率                           |      | 自ら鍛える生徒    |
|----------------------------------------|------|------------|
|                                        |      | 豊かな心を育てる生徒 |
|                                        |      | 自ら学ぶ生徒     |
| 項目                                     | 全校   |            |
| 17 生徒の心身の健全育成を目指した部活動(がんばり抜く部活)        | 72.2 |            |
| 12 自主的かつ協力的な学校、学年、学級の活動                | 68.0 |            |
| 15 ものを大切にし、意欲的な清掃活動(無言清掃等)             | 66.5 |            |
| 1 学校の実態に合った本校の教育目標                     | 65.3 |            |
| 11 生徒の思い出に残る学校行事                       | 64.8 |            |
| 13 生徒一人一人の希望進路の実現に向けた適切な指導             | 62.8 |            |
| 16 積極的なボランティア活動(ブルタブ回収運動等)             | 62.4 |            |
| 10 生徒の人権意識を高める指導                       | 61.5 |            |
| 9 生徒の道德心を高める指導                         | 61.4 |            |
| 19 保護者や地域に積極的な情報提供・地域の教育力の活用           | 61.3 |            |
| 7 共通理解のもと、生徒一人一人を大切にした生徒指導             | 61.0 |            |
| 6 規範意識をもった生活(ア・ハ・ハ運動＝あいさつ、はきもの、はいの返事等) | 60.9 |            |
| 3 積極的な読書                               | 60.5 |            |
| 14 生徒一人一人の特性に応じた指導                     | 60.4 |            |
| 18 清潔で安全、安心して生活できる施設・設備                | 60.1 |            |
| 5 家庭学習の習慣                              | 58.9 |            |
| 8 いじめがなく、楽しい場所                         | 58.8 |            |
| 4 楽しく分かりやすい授業                          | 58.7 |            |
| 2 意欲的な学習への取組、基礎・基本の定着(討論・反復学習)         | 57.7 |            |

〔図15 保護者による評価の肯定率〕

## ウ 分科会

分科会では、「実効性のある自己評価を目指して」と題して、それぞれの校種で教務主任部会、研修主任部会に分かれて演習を行い、自校の自己評価、保護者・児童生徒アンケート、学校関係者評価等の様式、グランドデザイン、重点指導事項の評価等を活用し、実際に評価項目の見直しを行った。

### (5) 研修の成果

グランドデザインとの関連性を視野に入れた自己評価項目の設定、学校運営の改善に結び付く評価とするための配慮事項、専門的視野からの情報の分析と表現方法など、多くの学びがあった。

また、小中連携による相互評価や中学校区内の小・中学校における授業実践交流の推進など、新たな研修の方向性が見つかるなど、次年度につながる研修となった。

学校ごとの取組の差が大きいという実態が明らかになり、今後は、市内の全ての学校に共通する学校関係者評価の評価項目や形式を設定していくことなどについても、考えていく必要がある。



## V 学校運営の改善の成果の定量的な測定

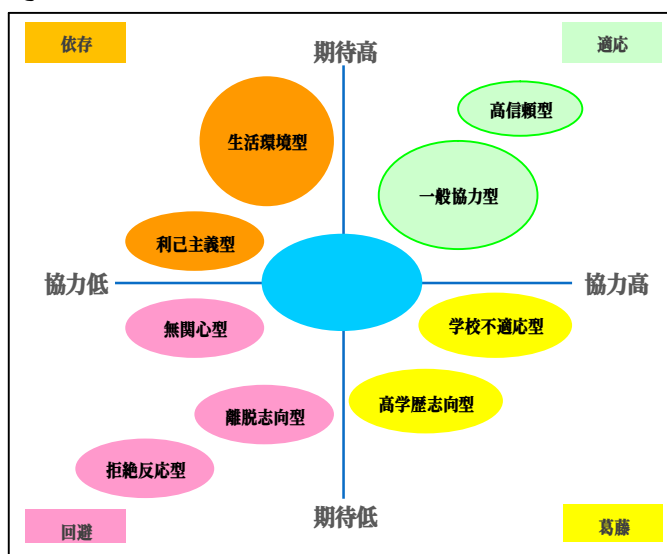
学校評価やアンケート等から得た多くの情報を、どのように分析し、学校運営の改善に結び付けるかが重要である。ここでは、愛媛大学教育学部露口健司准教授が開発した、保護者を対象としたアンケート「保護者集団構造分析モデル（P-TRUST2010）」の分析資料を基に、学校運営の改善の成果を定量的に測定し分析する手法と、分析結果を生かした取組について紹介する。

### 1 保護者集団の構造把握

#### (1) 保護者の学校信頼度分析調査について

P32 ページに示す 23 項目のアンケートに対する回答状況から、保護者の、学校への期待度、協力度の相関を分析し、保護者の適応の構成比率を信頼度として読み取るものである。表1に示すように、「適応」「葛藤」「依存」「回避」の四つの領域の分布によって保護者集団の構造を把握するものである。

このアンケートを適切な時期に実施することにより、保護者の学校に対する期待度と協力度の推移を定量的に測定し、学校運営の改善の成果を見取ることができる。



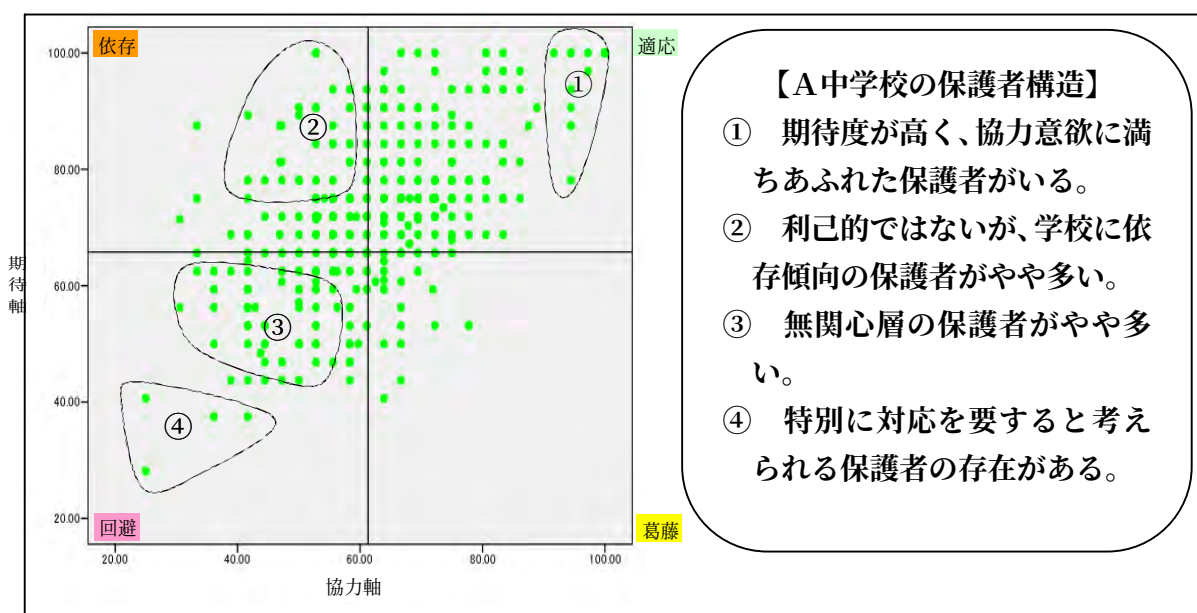
〔図1 保護者集団の構造分析〕

〔表1 集団の構造分類〕

| 領 域                                                                                                                            | 各領域の特徴                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 適 応                                                                                                                            | 学校に対して高い期待を持ち、参加的・協力的態度も高い。学校に対する愛着と一体感が非常に高い少数の「高信頼型」と、一般的な学校支持者である「一般協力型」に細分化できる。                                                          |
| 葛 藤                                                                                                                            | 学校に対する参加的・協力的態度を示しつつも、一方で何らかの不満を保持している。特に指導面での不満が顕在化している「学校不適応型」と高学歴・学校歴への欲求水準が極めて高い「高学歴指向型」に細分化できる。                                         |
| 依 存                                                                                                                            | 学校に対して高い期待感を示すが、参加的・協力的態度が脆弱である。家庭の事情でやむを得ず参加・協力が困難な状態にある「生活環境型」と、自分の子どもに対する関心は示すが、全体的な参加的・協力的態度が極端に低い「利己主義型」に細分化できる。                        |
| 回 避                                                                                                                            | 学校に対する期待感も参加的・協力的態度ともに脆弱である。子どもの教育に対する関心が生活環境の悪化等と連動して著しく低下している「無関心型」、学校に対する不満が攻撃性になりつつある「離脱志向型」、学校の全てが嫌いであり、学校との関わりを絶とうとしている「拒絶反応型」に細分化できる。 |
| ○ 期待軸＝(q1,q4,q5,q6,q7,q13,q14,q15の平均値)×25<br>○ 協力軸＝(q2,q3,q8,q9,q10,q11,q12,q16,q17の平均値)×25<br>※ q1,q2…はP-TRUSTの質問番号（P32、33参照） |                                                                                                                                              |

## (2) 分析結果の活用

図2に、A中学校における調査結果を示す。



〔図2 A中学校7月の出力結果〕

調査結果から、A中学校に対する保護者の信頼度、期待度はたいへん高いことが読み取れる。しかし、依存傾向の保護者がやや多いこと、学校教育に対して無関心であったり、非協力的であったりという、課題となる保護者もいることが明らかになった。

アンケート結果では、「学校が落ち着いている」の質問に対して、85%の保護者が「学校の先生は指導力がある」の質問に対して73%の保護者が肯定的な回答をしている。しかし、項目別に分析すると、回避の領域にある保護者には、評価されていないことが分かった。

A中学校では、このアンケートの結果や1学期の学校評価の結果から、空き時間や休み時間になるべく生徒に寄り添い、個々の生徒へのきめ細かい指導・支援を大切にすること、生徒一人一人のよいところを見付けること、授業改善に継続して取り組むことに加え、学校から保護者への情報提供の方法について改善を図るという方針の下に改善策を検討した。

## 2 学校運営の改善の成果の検証

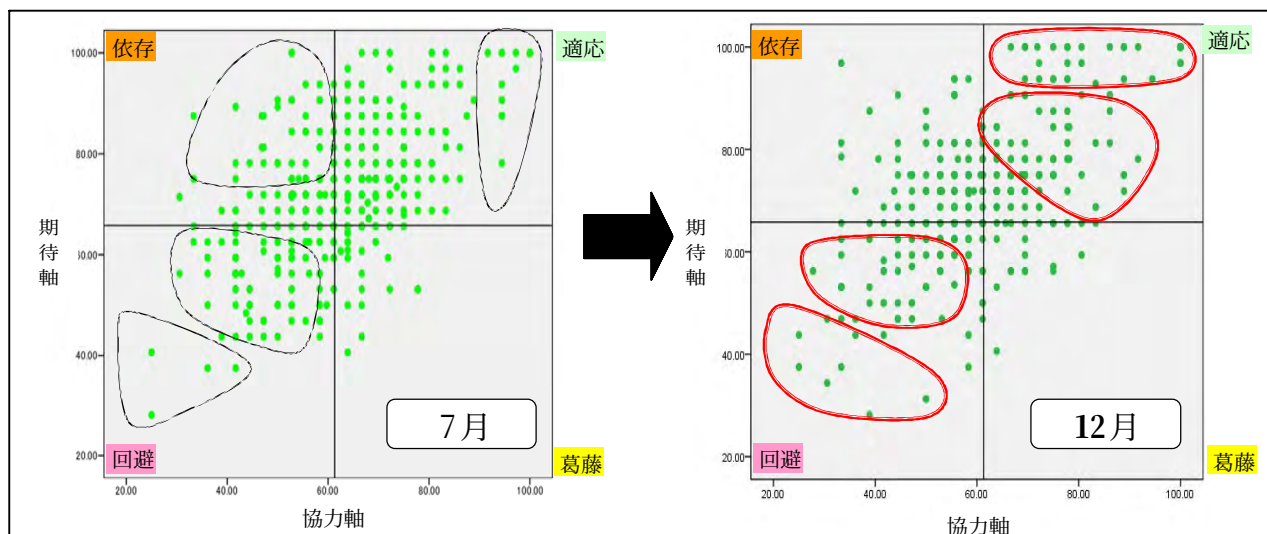
7月と12月の2回のアンケート分析結果を比較し、保護者の意識がどのように変容したかを定量的に確認することにより、学校運営の改善の成果を検証する。次に示す二つの段階を追って検証することにより、多面的な検証が可能となる。

### (1) 集団ごとの成果の検証

まず、保護者の集団ごとに、各領域の構成がどのように変化したかに注目して成果の検証を進める。表2及び図3に7月と12月の変化の様子を示す。

〔表2 各領域の割合の変化（A中学校：全校）〕

|     | 適応    | 葛藤   | 依存    | 回避    |
|-----|-------|------|-------|-------|
| 7月  | 37.6% | 7.4% | 26.2% | 28.8% |
| 12月 | 37.5% | 6.5% | 28.4% | 27.6% |



〔図3 調査結果の比較（A中学校：全体）〕

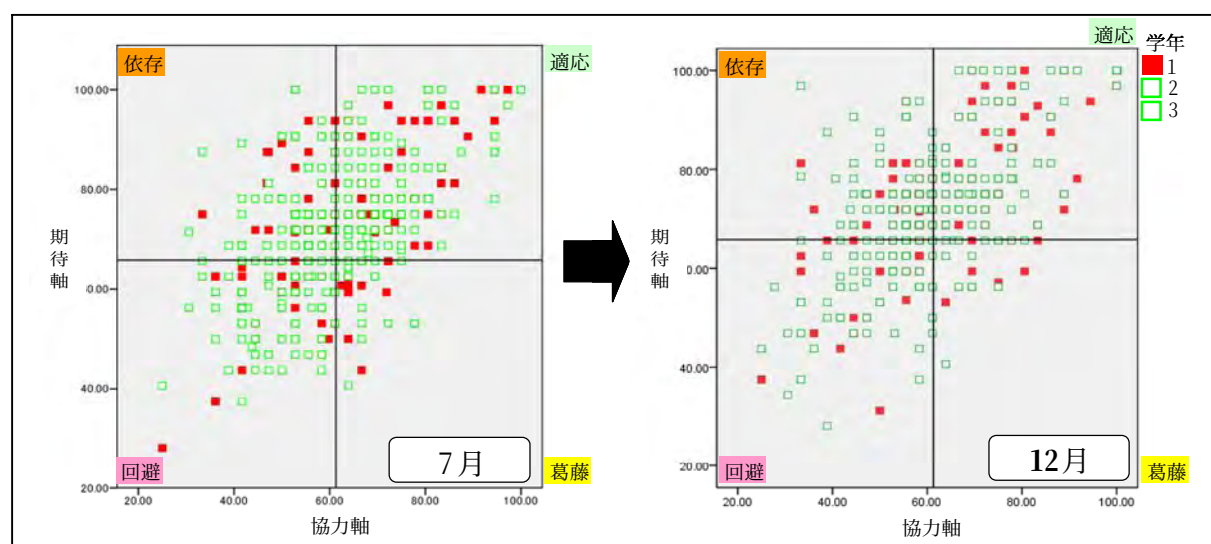
4領域の分布を数値で見るとあまり変化はない。また、分布図により領域別に比較すると、回避領域の無関心層がやや減少し、依存領域が増えている。無関心層の減少は、充実した学校行事や体験活動の実施の成果と考えられる。また、1年生は愛媛県学力診断調査〔生徒質問紙調査〕の結果では学力に相関する7要因全て県平均水準を上回っており、学習に対する意欲の高まりもその理由であると考えられる。一方、学校に対する期待度が非常に高い保護者がいる反面、回避領域の中に学校に対して不満をもっている可能性のある保護者が存在する。

また、学年別に分析することにより、それぞれの学年の特徴を把握し、課題を明確にすることができる。これを基に学年経営や保護者啓発の在り方などの具体的な改善方策について、教職員の共通理解を図ることができる。

表3、図4に1年生の分析結果を示す。

〔表3 各領域の割合の変化（A中学校：1年生）〕

|     | 適応    | 葛藤   | 依存    | 回避    |
|-----|-------|------|-------|-------|
| 7月  | 40.0% | 8.2% | 25.9% | 25.9% |
| 12月 | 40.5% | 5.3% | 31.6% | 22.6% |



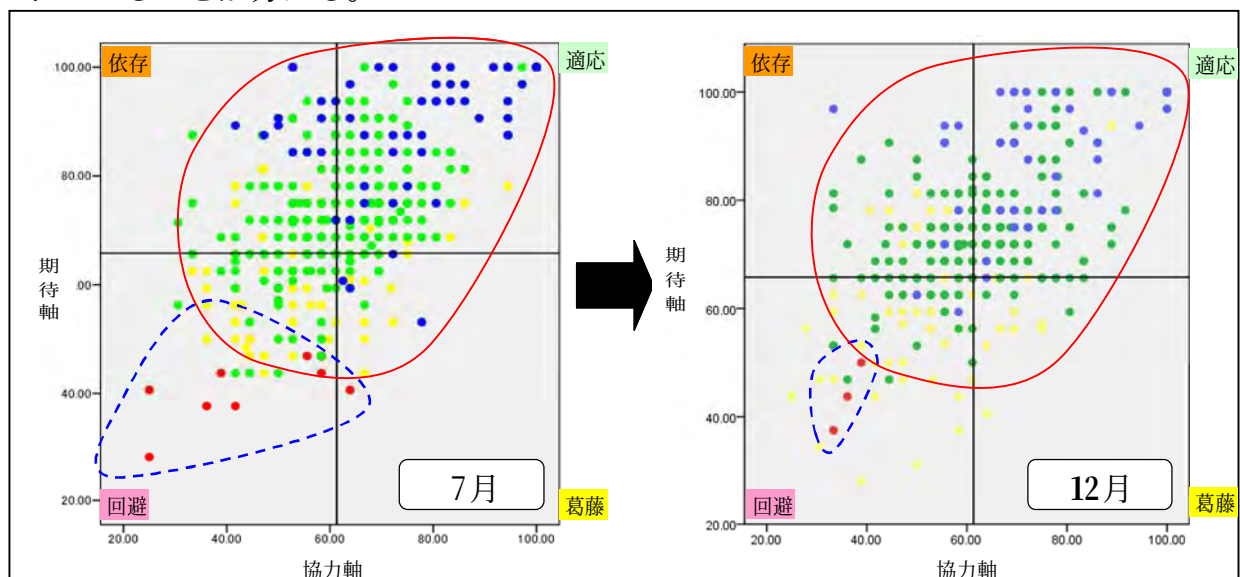
〔図4 調査結果の比較（A中学校：1年生）〕



1年生は適応領域の保護者の比率が高く、回避領域の割合が低い。2、3年生に比べると依存領域の保護者が特に多いのが特徴である。7月と12月のアンケート結果を比べると、期待値が高まっている状況が確認できる。依存領域と、回避領域の中の無関心層の保護者に対する働き掛けが必要である。

## (2) 項目ごとの成果の検証

保護者集団ごとの構造の変化による検証を踏まえ、項目ごとのアンケート結果を比較して学校運営の改善の成果を検証する。図5に示すように、「学校の改善が着実に進んでいるか」の項目に着目し、学校運営の改善に向けた取組を各領域の保護者がどのように捉えているかを把握し、その変容を検証することができる。図5の回避領域に着目すると、7月結果では回避領域の保護者には、改善の状況があまり感じられておらず「全く感じられない」と答えた保護者の存在があったが、12月結果では「全く感じられない」と回答した保護者は減少している。1学期の評価分析と改善方策に基づき、保護者との関係を密にし、個々の生徒との関わりを大切にした取組の成果が現れていることが分かる。



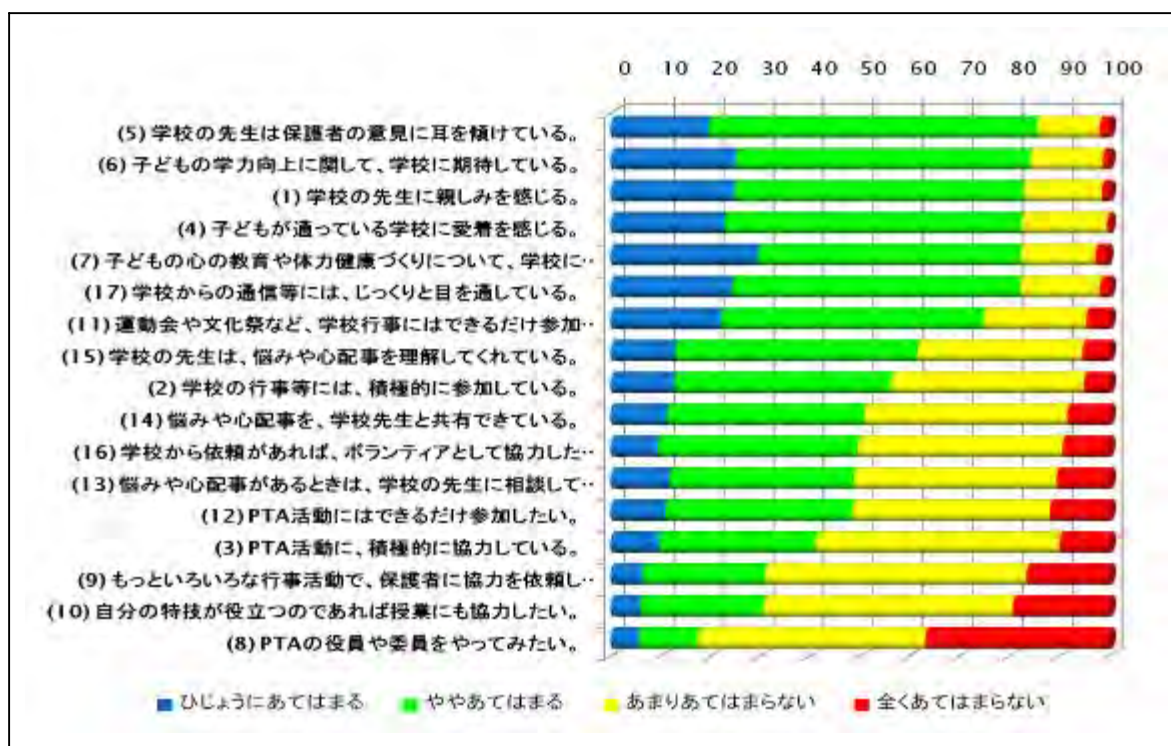
〔図5 「学校の改善が着実に進んでいる」の質問に対する保護者の分布状況〕

7月の結果との比較のグラフによると「学校の先生は、保護者の意見に耳を傾けている」「子どもの学力向上に関して学校に期待している」の項目で肯定的な回答をしている保護者が1、2学期を通じてたいへん多く、学校の強みとなっていることが分かる。学校に対して愛着を感じている保護者も多い。

また、「PTAの役員や委員をやりたい」と答えている保護者は割合としては少ないが、7月の結果に比べると増えていることが分かる。

A中学校の場合、約7割の保護者が肯定的な回答をしているため、多くの保護者が学校の教育活動を評価していると言える。一方、図6の結果を見ると、各項目で数値は伸びておらず、改善の状況があまり保護者に認識されていない。

A中学校では、自己評価、学校関係者評価、第三者評価ともに課題があると判断された「授業改善」に更に力を入れるとともに、A中学校が最も力を注いでいる生徒の規範意識を高め、個々の生徒を大切にした指導を継続する方向で、次年度に向けて準備を進めていくこととした。



〔図6 12月調査の項目ごとの度数分布〕



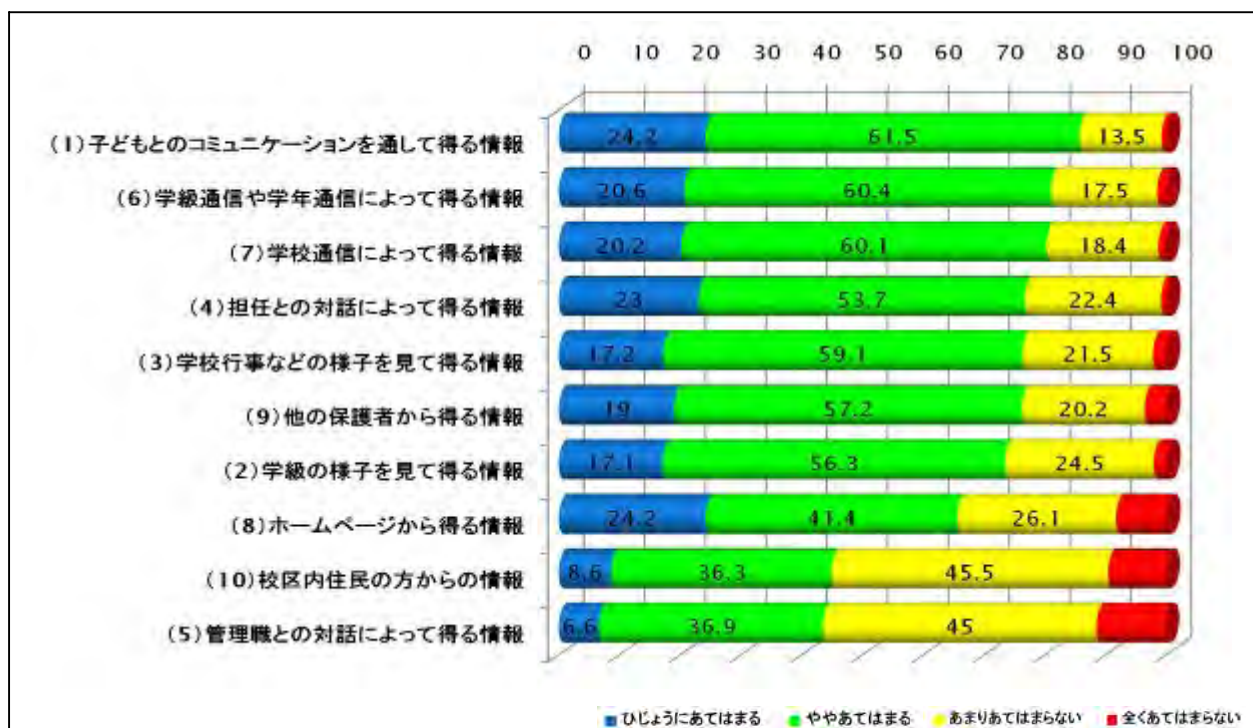
〔図7 項目ごとの調査結果（7月との比較）〕

### 3 学校信頼につながる情報

研究指定校等で行った保護者を対象としたアンケートによると、「学校の様子を理解するためにどのような情報を手掛かりにしているか」という質問に対する回答結果は図8のとおりである。最も多い回答は「子どもとのコミュニケーション」であり、次いで「学級通信や学年通信」「学校通信」「学級担任との対話」によって得る情報の順とな



っている。質問項目ごとに分析すると、「学校行事などの様子を見て得る情報」と回答した保護者は、「適応」領域に多く、「担任との対話によって得る情報」と回答した保護者は、回避領域、葛藤領域に多い。回避領域、葛藤領域の保護者に対しては、特に、対話による情報交換が大切である。このように、保護者集団の構造を分析した結果を、保護者や児童生徒への関わりや授業改善など、今後の指導に生かすことが大切である。



〔図8 保護者が学校の様子を理解するために活用する情報〕

#### 4 成果と課題

学校運営の改善の成果を定量的に測定する手法によって、学校の教育活動の改善がどのように図られたか、その成果を数値で確認することができる。さらに、多面的に分析することにより、質問紙だけでは見えない、それぞれの集団に属している保護者がどのように変容したかを見取ることができた。

今回は、短期間での取組であったため、結果として表れていないところがあるが、学校評価の結果、愛媛県学力診断調査〔児童生徒質問紙調査〕、保護者集団構造分析モデル (P-TRUST) の結果を併せて定量的に測定し、評価結果を的確に分析することにより、学校評価の有用性や改善の成果を実感することができる。また、学校経営の課題を明確にして、学校、家庭・地域が一体となり具体的な手だてを講じて学校運営の改善に取り組むことができる。



## VI 資料

### ◇保護者アンケート〔保護者集団構造分析モデル（P-TRUST2010）〕

1. 保護者の方々による日頃の学校や地域への関わり方について質問します。下記の質問について、当てはまる番号に○印をつけてください。

|                                           | 全く当てはまる | あまり当てはまらない | やや当てはまる | ひよくに当てはまる | 当てはまる |
|-------------------------------------------|---------|------------|---------|-----------|-------|
| (1) 学校の先生に親しみを感じる。……………                   | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (2) 学校の行事等には、積極的に参加している。……………             | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (3) PTA 活動に、積極的に協力している。……………              | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (4) 子どもが通っている学校に愛着を感じる。……………              | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (5) 学校の先生は保護者の意見に耳を傾けている。……………            | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (6) 子どもの学力向上に関して、学校に期待している。……………          | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (7) 子どもの心の教育や体力・健康づくりについて、学校に期待している。…………… | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (8) PTA の役員や委員をやってみたい。……………               | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (9) もっといろいろな行事・活動で、保護者に協力を依頼して欲しい。……………   | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (10) 自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したい。……           | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (11) 運動会や文化祭など、学校行事にはできるだけ参加したい。……………     | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (12) PTA 活動にはできるだけ参加したい。……………             | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (13) 悩みや心配事があるときは、学校の先生に相談している。……………      | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (14) 悩みや心配事を、学校・先生と共有できている。……………          | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (15) 学校の先生は、悩みや心配事を理解してくれている。……           | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (16) 学校から依頼があれば、ボランティアとして協力したい。……………      | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (17) 学校からの通信等には、じっくりと目を通してしている。……         | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (18) 子どもの友達の親(保護者)は、ほとんど知っている。……………       | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (19) 子どもの教育について保護者同士で相談することがある。……………      | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (20) 地域行事に、積極的に参加している。……………               | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (21) 子どもの学校は、落ち着いたよい学校だと思う。……………          | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (22) 子どもの学校の先生は、指導力が高いと思う。……………           | 4       | 3          | 2       | 1         |       |
| (23) 子どもの学校は、着実に改善が進んでいる。……………            | 4       | 3          | 2       | 1         |       |

2. 保護者の方々が、学校の様子を理解するために活用している情報について質問します。下記の項目に示す情報は、学校理解のためにどの程度役立っていますか？  
当てはまるものをひとつ選び○印をおつけください。

|                                 | 全く当てはまらない | あまり当てはまらない | やや当てはまる | ひじょうに当てはまる |
|---------------------------------|-----------|------------|---------|------------|
| (1) 子どもとのコミュニケーションを通して得る情報…………… | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (2) 学級の様子を見て得る情報……………           | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (3) 学校行事などの様子を見て得る情報……………       | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (4) 担任との対話によって得る情報……………         | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (5) 管理職との対話によって得る情報……………        | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (6) 学級通信や学年通信によって得る情報……………      | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (7) 学校通信によって得る情報……………           | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (8) ホームページから得る情報……………           | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (9) 他の保護者から得る情報……………            | 4         | 3          | 2       | 1          |
| (10) 校区内住民の方からの情報……………          | 4         | 3          | 2       | 1          |

○ご協力、誠にありがとうございました。

◇四国中央市学校関係者評価記入シート

学校関係者評価記入シート

評価委員氏名（ ）

記入月日（ 月 日）

| 評 価 の 観 点                                  |                                                      | 概況(当てはまる項目に○を記入) |              |                |           |
|--------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------|--------------|----------------|-----------|
|                                            |                                                      | とても当てはまる         | どちらかという当てはまる | どちらかという当てはまらない | 全く当てはまらない |
|                                            |                                                      | ▼                | ▼            | ▼              | ▼         |
| <b>&lt;市内共通項目&gt;</b>                      |                                                      |                  |              |                |           |
| 1                                          | 学校の教育目標の達成に向けて具体的な目標を設定し、校長を中心に組織的に学校運営や教育活動を行っているか。 | 4                | 3            | 2              | 1         |
| 2                                          | 自己評価結果を分析して具体的な改善方策を実施し、課題が改善されているか。                 | 4                | 3            | 2              | 1         |
| 3                                          | 教育活動や評価結果に関して、分かりやすく情報提供できているか。                      | 4                | 3            | 2              | 1         |
| 4                                          | 保護者、地域住民は、学校運営に積極的に参加・協力しているか。                       | 4                | 3            | 2              | 1         |
| 5                                          | 学校関係者評価委員会は、適切に運営されているか。                             | 4                | 3            | 2              | 1         |
| <b>&lt;学校独自の評価項目&gt; ※ 危機管理の徹底・施設設備の整備</b> |                                                      |                  |              |                |           |
| 6                                          |                                                      | 4                | 3            | 2              | 1         |
| 7                                          |                                                      | 4                | 3            | 2              | 1         |
| 8                                          |                                                      | 4                | 3            | 2              | 1         |
| <b>【具体的改善策等の提言】</b>                        |                                                      |                  |              |                |           |
|                                            |                                                      |                  |              |                |           |

【参考資料】

「学校評価ガイドライン〔平成 22 年改訂〕」

文部科学省 平成 22 年 7 月

「校長職の新たな課題」

露口 健司 教育開発研究所 平成 23 年 4 月

「よりよい学校づくりのために」

平成 18 年度 学校評価システムの構築

平成 19 年度 学校評価実践事例集

平成 20 年度 学校評価実践事例集Ⅱ

平成 21 年度 第三者評価の手引き

愛媛県教育委員会

【愛媛県教育委員会義務教育課】

課 長 越智 眞次

課 長 補 佐 山本 恵

教育指導係長 齊藤 照夫

幼児教育係長 安田 智美

指 導 主 事 山本 浅幸

〃 鈴鹿 基廣

〃 若田 益業

〃 中野 公雅

〃 松浦 博文

〃 渡部 ゆかり

〃 田坂 文明

指 導 主 事 永木 泰造

〃 山内 孔

〃 前原 淳

〃 柿並 陽子

〃 大倉 匡仁

〃 川崎ひとみ

平成 22 年度 よりよい学校づくりのために  
－学校改善の成果の検証－

平成 23 年 3 月発行  
愛媛県教育委員会義務教育課